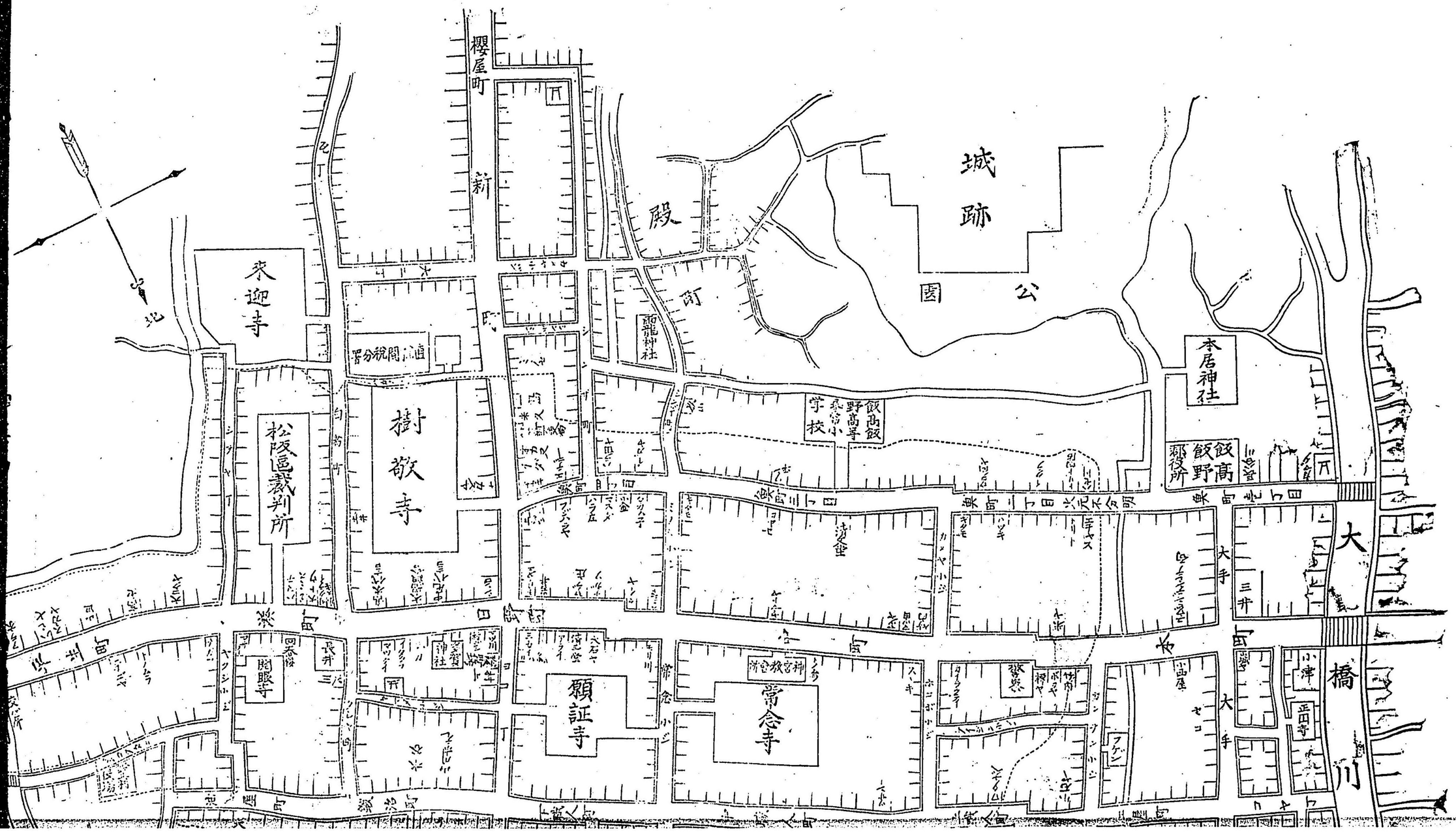
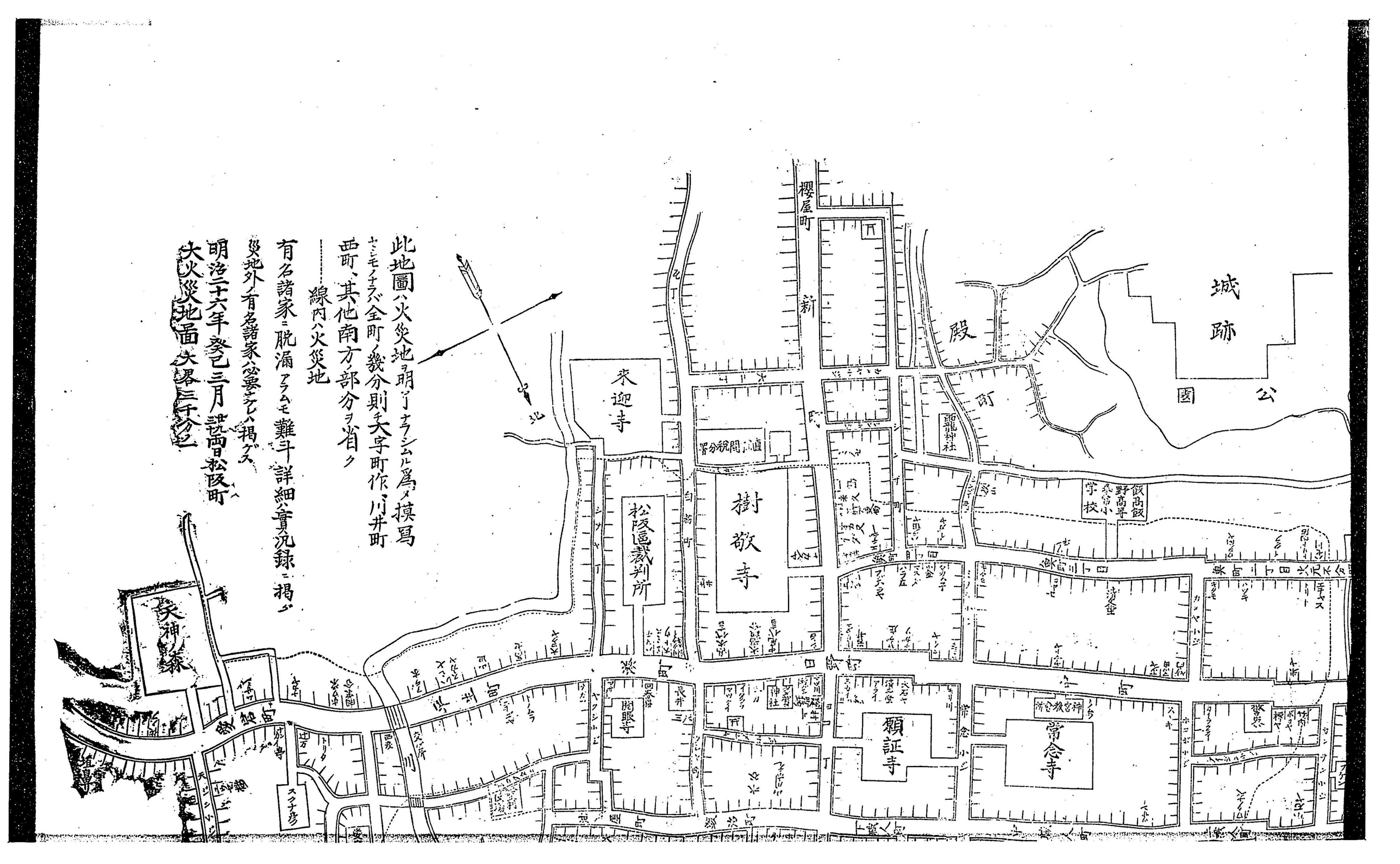
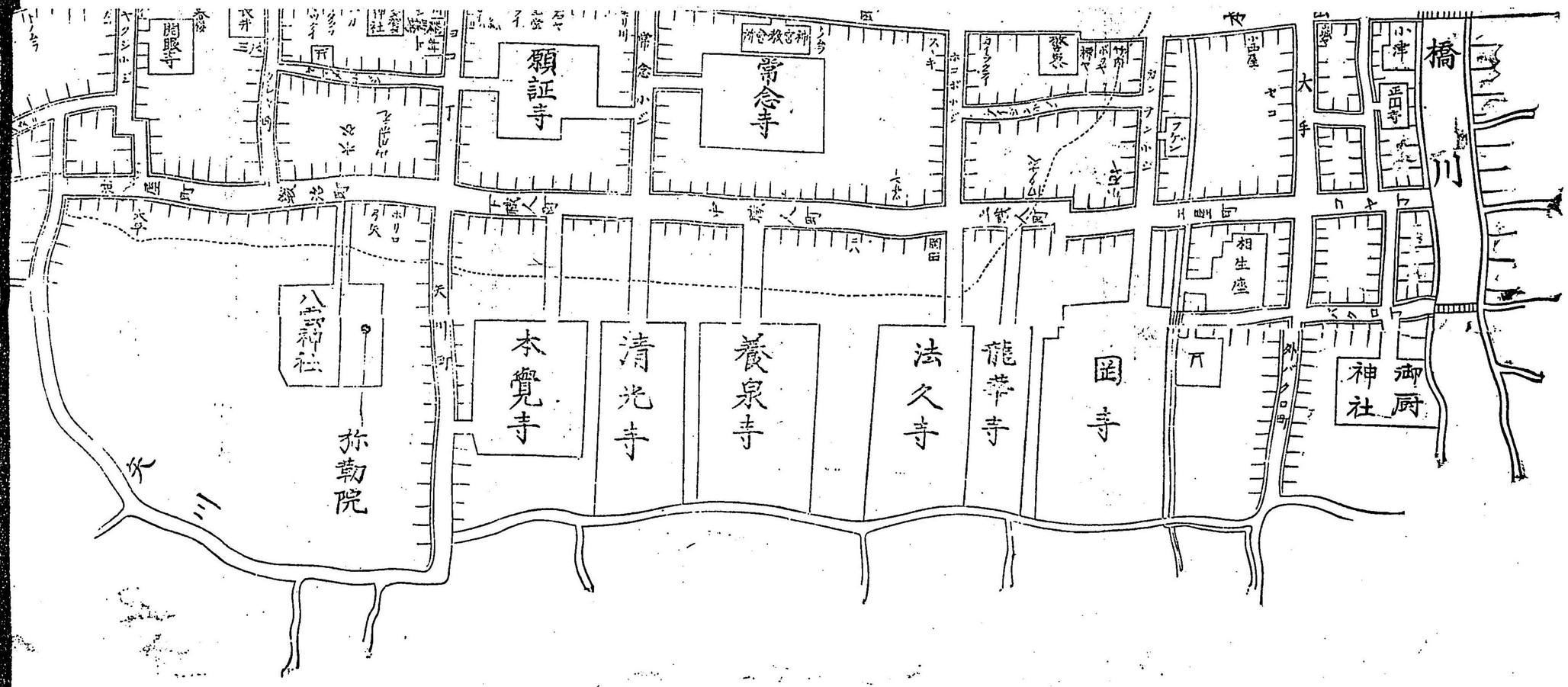
仁孝皇后金寶況錄

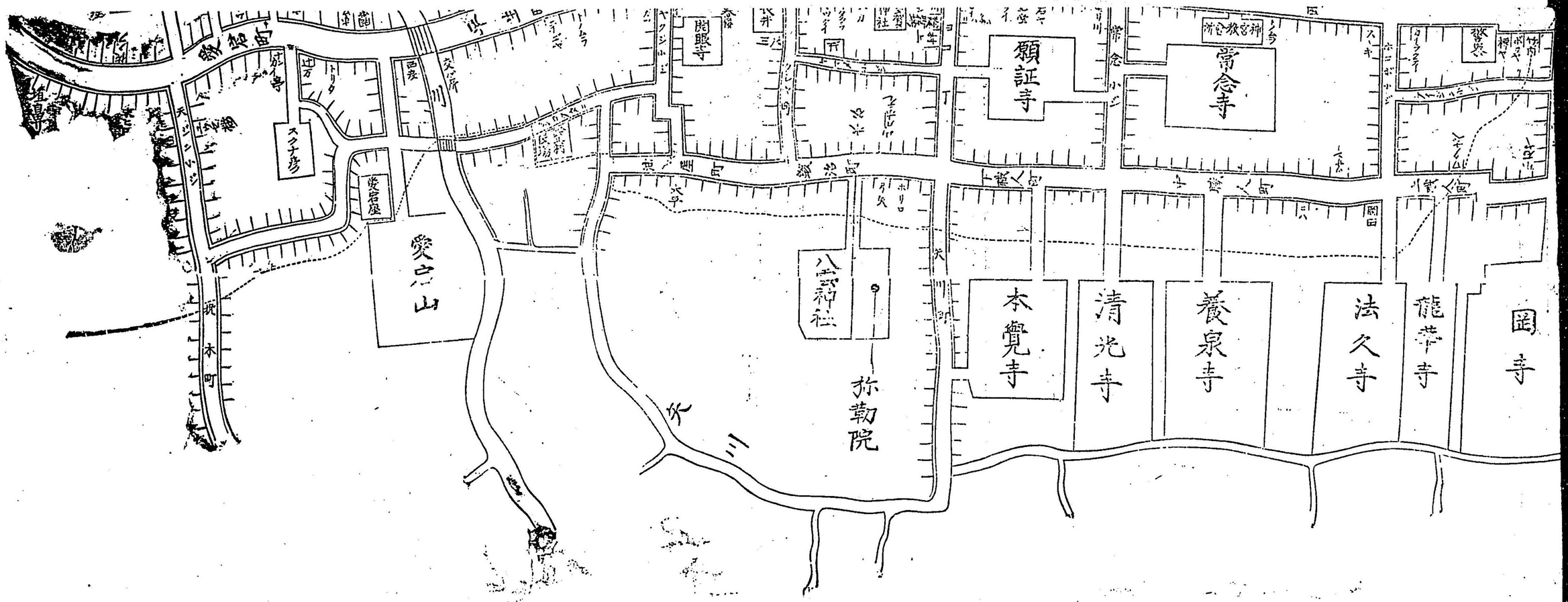
猛火之圖

特51
99


櫻屋町
新殿町
城跡
公園
來迎寺
樹敬寺
松阪區裁判所
本居神社
飯高飯野郡役所
飯高飯野高等小學校
龍神社
願証寺
常念寺
大橋
大手
三井
小津
西寺
北


此地圖ハ火災地明了ナラシムル爲メ摸寫
セシモノナレバ全町ノ幾分則チ天字町作ノ川井町
西町、其他南方部分ヲ省ク
……線内ハ火災地
有名諸家ニ脱漏アラムモ難斗詳細ハ實況録ニ掲ゲ
災地外ノ有名諸家ハ必要ナレバ掲ゲス
明治二十六年癸巳三月調西松阪町
大火災地圖 大略三千分之一
櫻屋町
新
殿
町
城跡
公
園
來迎寺
松阪區裁判所
樹敬寺
龍神社
飯野高等小學校
願証寺
常念寺
天神森
長井
川
西
新
町
通
常念小路
天神小路
スワナ彦


願証寺
常念寺
橋
川
大手
相生座
御厨神社
八幡神社
弥勒院
本覺寺
清光寺
養泉寺
法久寺
龍華寺
岡寺


愛宕山
八坂神社
祐勒院
本覺寺
清光寺
養泉寺
法久寺
龍華寺
願証寺
常念寺
閑眼寺
岡寺

伊勢松阪町大火實況錄

松坂町　好墨堂主人著

維時明治廿六年三月廿九日噫此日は其れ如何なる凶日ぞや午后七時許（陰暦二月十二日乙丑酉ノ下刻）俄然一點の警鐘耳朶に響くと共に一道の火焔は月光を掠めて松阪町大字魚町二丁目より起り（火元は目下爭ひ中にして判然せず）登時強天の西風烈しく忽ち接近の五六戸を燃燒すると同時は看る〳〵中中町へ燒け拔け警察署に移り同町侍丙嘉吉氏の土藏（明治九年十二月十九日縣下の暴民が兇器ひ本町三井銀行に火を放ちて同町を燒き延ヘ中町弐拾餘戸を燒失せし時も此十藏ニて防ぎ止ヘ且無事なりしが仍ほ今回も等しく安全なるを得たるは全く其築造堅固の然らしむる所以なりしか）にて止りたるが其火先きは延いて常念寺を燒き掃い職人町へ燒ぬけ一方火元のかたは魚町二三四の町家を瞬間に撫でまた一方は中町より日野町湊町愛宕町と伊勢街道を一直線に延燒せしめたり當時火炎が已に湊町に至りし頃間町以南なる愛宕川にて鎭壓せむ計りなりしもなにしをふ非常の疾風なりしかば防くに術なし遂に同川を起あて愛宕町より門前町天神小路及飯高郡神戸村大字垣鼻五六戸をかけて燒けぬけ畛畷にて消し止めたり又職人町の一方は常念小路願證寺横町鍛冶町寿町油屋町櫛屋町藥師小路等を燒で湊町の火先きと合し魚町の火先きは紀州街道口なる新町を央ば燒きて白粉町に出で墓の小路鹽屋町を經て大通り湊町の火勢を併せ一面に燃へ廣かれりかくて南方の消止りの一端は新町四拾三番屋敷伊藤清次郎氏宅なるが翌三十日午前八時頃にして松阪町東西兩組の消防夫最も能く盡力し又一端は同町岡村基吉氏宅を以て多氣郡御絲村大字志貴の消防夫甚だ之を勉め同日午前九時の頃首尾能く鎭壓せり而して東方に於ては同午前十時頃門前町の東續きなる挽木町の家屋を毀覆せしめて消し止むることを得北方は櫛町に接する矢川町にて一戸を燒き二戸を破壞せしめて防き止め西方は中町の北

端を魚町二丁目の溝渠にて消し止めたり此如火焔は烈風に乘じて自由自在に猛威を逞くして火烟天に漲きり火子は梨地を爲して虚霄に飛散せしも十往無盡に火揚し了りて猛威を逞くするに由なく終に鎭火を告げしは三十日午后三時頃にして其火失時間は實に十五時間の永きに渡りたり

◉古文國歌に神風を以て冠辭とする吾が伊勢國は常に風伯の颯然たるもの多きが中殊に松阪町大火災の夜は迦倶突知の神の暴ひ奇しかりけるたださへ乾燥なる風は西に北に吹荒れて聲は宛爾砂塵地を捲て更に天を蔽ひ夜は恰然も月色慘然として爲めに光りを失ふ斗りなりしが果せるかな是の一大禍此の一大椿事てう現出しにけれ嗚呼悲慘なる哉酸鼻なる哉該火焔の駿速なる火光は東に向て走り稍燒くべき家屋燼んとすれは忽ち風向は變じて南を指て延燒し縱横に撫で無盡に煽りしほどにさしもに粉骨碎身なる防火夫も奔走に疲勞し一時はせんすべなき景況なりしかば火災は益暴威を逞くし此の黑烟の中に丈夫は家財を持運ひ婦女は老幼を扶け東西南北に逃け惑ひつゝ聲をかぎりに泣き叫ふ實に小説的に説叫喚大叫喚焦熱大焦熱の奈落の慘狀を眼下見る心地ぞせし況んや

辛ふして指退きたる家具は風の方向俄に變したるが爲め倏忽にして火勢熾々として灰土と化し去り只た呆然として爲すよしをしらす又消防夫は唧筒あれども水なく水あれども唧筒なきもの多く此の慘恒たる悲哀なる情は克く筆紙の盡くす處にあらさるなり

松阪郵便電信局は同地本町にして火元なる魚町二丁目は背後に接し居るを以て出火の當時混樣を極めたること實に非常にして該夜午后九時三十分過ぎまては此危險中なるにも拘はらず技術に專ら從事したるが爲め此火災の變電は能く遠地にまで通するを得たりしか同時後は愈よ危殆に迫り遂に官私報とも不通となりたりし

◉該災火の當時津市なる塔世橋詰の警鐘掛はいちはやくも之を部内の火災とや看認めけむ三點鐘を打始めたるより驚破失火よと騒れも走り出て之を見るに南方の一天己に火光霧靄きたるにぞ藤枝町にやあらん否近村なるべしなど南をさして馳せ出すもあり二三の消防組は早や整列して甫に向ひ操り出すより津市内は一時非常の混雜を極めたる所も漸くにして松阪の大火なること判然せしより中途にして歸宅すもあり或は丸之内を經て伊勢新聞社の門前を通過したるものは該社が貼示せし電文を見て引戻す者も多かりしとぞ

◉山田の混雜　三月三十日松阪町大火報達するや右に付き山田の混雜は實に非常なる事にて俄に炊出しを爲す者見舞を買ふ者陸續として馬車を走らす者腕車を馳する者一時當町より小俣村近傍人力車立場は殆んど皆無の有樣となり松阪町まで二人曳壹圓一人曳は三拾錢以上に直上げせし程なりしと

◉翌朝伊勢新聞社は電報欄内に左の如く掲げたり

（電文）當地魚町二丁目鳥藤の前（世古藤助氏向家）より出火折節西の風烈しく諸方へ延燒し火勢益す猛烈も極む

四月廿九日午后八時伊勢新聞社松坂通信員

右の電報に接するや直ちに社長松本之恒助氏は慰問として急行腕車を馳せて當地に出張し仍ほ同社消防夫は同夜九時四十分各隊伍を成して唧筒を整備し應援として來坂せり

又

（電文）强風愈よ吹きをさみ猛火一圓延燒無數當松坂町は半は灰燼たらんとす怪我人燒死人も尠なからず實に名狀すへからさる慘狀を極む今や電信不通とならんとす

仝日午后九時十五分　仝上

右に付同社は報して曰く

◉松坂町選擧の延期、松坂町の大火は殆んど全町の半を灰燼に附するの勢ひなれば今三十日の衆議院議員第四區内なる松坂町の選擧會場たる

べき家屋及び町役場等安否を知るべからざる而已ならず撰擧人中不慮の災變に係りたる者數多ければ當日豫定の撰擧を行はしむべきに非らざれは松坂町の撰擧は一日を綏ふして明三十一日に延期し可成撰擧人をして遺憾なからしむる方穩當なれば知事は出張の進藤縣屬此の內命を傳へたる由なれば松坂町の撰擧は多分明三十一日となるべきなべし

本日(今三十日)午前尙ほ火焰を望む　松坂大火は午前二時に及ぶも歇まず火焰熾に南天ニ漲れり

◉松坂の紀元、火災の沿革

松坂は元龜元年ニ起りしものにて天正十二年甲申蒲生飛彈守氏鄉羽柴秀吉の命ニより近江國日野より一志郡松ヶ嶋細首（或は細組とも云ふ）城ニ遷り居ると五年ニして同十六戊子年細首城を飯高郡龜甲山（今の公園邊壹圓の古稱か）ニ引遷り美々しく增營り然して此地の名を松坂と名けぬ又一說ニ仝十八年庚寅年六十一万石を給わり奥州會津へ國換し其所をも若松と改稱せり然るニ俚俗ニ參宮古街道（三渡名殘鄉津高町屋岸の江と順ニ往復せしなり）より見渡すニ右手遙ニ松の坂見へしが後年此所ニ城廓を築きて市街を開く因りて城を四五百城といひ市町を松坂と號くといへる說あれど是れは跡なし言なるべしと云へり是れ則ち松阪の紀元ニして又大火は本年ニ至るまで殆んど六回の多きニ及ひたるが今其の沿革を記さんニ初度は延寶八庚申年十二月(日不詳)川井町より出火折柄西風嚴しく此ニ中町まて延ひて岡寺ニて止まる第二回は元祿三庚午年十二月七日木下町御子家治太夫火を失し大抵松坂を延燒し此家數千六百十餘戶ニ及べり之れ松阪の火災五回中大一の大火なりと云ふ第三回は享保元丙年十二月九日再び川井町より出火此の夜特ニ北風强く大工町まで延燒し白粉町來迎寺ニて止む第四回は享保十四己酉二月二日鍛冶町彌勒院より出火愛宕川の西涯ニて鎭火す第五回は元文元丙辰十年十一月

十六日三度川井町より發火折惡しく東北の風强く南に延ひ殿町に及ぶ此時川井町人民協議をなし鎭火の爲めに秋葉神社を新營して鎭祭を執行せりと而して當時如何なれは斯くは大火災の數次ありしやと云ふに同所開闢して永祿より元文まで凡百七十年間にして年頗ぶる淺く隨て市中の家屋も十中の七八は大抵藁葺なりしが上總て粗雜にてありしか故に一朝火を失する時は之れを防くに甚だ困難にして終に意外の大火に及びたりしも其后漸次建築も完全となり且つ消防夫等を備はり爲めに大火災の跡を絕つに至りしに今圖らずも第二回に續ての回祿の災を蒙むり全町の大半を焦土と化せしむるに至りしなりと松本秀業氏は物語りたりし事は氏の編したる松阪雜集補遺に詳びらかに載せたり

◉焚出し其他罹災者救護として當飯高飯野郡役所よりは共筋の令命にて罹災者へ焚出しせり山本飯高飯野郡長及ひ縣廳より出張の進藤屬石井保安課長は救護の事に專ら奔走せられたり又大平町長其他役員警官の盡力是亦非常にして能く行屆き當地の各官吏は徹夜事務に鞅掌せり

◉索封家長井九郎左衛門氏の居宅が類燒に罹りし際同家七棟の土藏の邊に於て消防に最も盡力せしは多氣郡下御絲村大字佐田咖筒方四拾名と仝郡齋宮村大字竹川より來りたる四拾名とにて身命を抛ちて之に當りたりといふ

◉松阪警察署は僅かに緊要書類を取出したるのみにて餘は總て灰燼に歸したるに付一旦高等學校內にて事務を執り居りしも再ひ本町御廚神社內に移れり(參宮鐵道株式會社)附工夫の人々は書籍取片付の爲には最も燒なうしと

◉三重新聞社は左の如く報じたり

◉不都合　三月廿九日七時過ぎ山田電信局は松阪大火の報を公にせざりしがため宇治山田警察署員の出張は翌日午前八時なりしと果して信なればとうも不都合を云ふてかなりと或人は語れり

◉松坂の消防夫百名は鎮火の後中町繼松寺内に集合して自他混雜せる防火具の取調べをなし居る由なり

◉松阪警察署にて火災の時一時解放せる拘留人六名の内賭博犯二三名は鎮火後同署へ歸囚せし由なり

◉大火災の慘報一たび傳ふるや諸方より公務上に關して郡長町長へ宛て電報及書信を以て災況を問合すなど往復頻繁を極むといふ

◉縣下各郡衙は孰れも郡吏を派して當地へ向わしめ各警察署長も亦た同じく出張ありたり

◉火災に罹りたる重なる者を擧れは左の如し

松坂區裁判所　執達吏役場
松坂警察署　松坂町役場
鈴止村役場
神宮教會所　多賀教會所
鈴森神社（天神森）外ニ無格社十社
樹敬寺　常念寺　願証寺
菅相寺　開眼寺

參宮鐵道株式會社出張所　伊勢新聞松坂支局

◉松阪町大字魚町ノ部

佐波伊藏　曾原德三郎
小津金兵衛　高峰太郎兵衛
世古莊次郎　世古幸三郎
增田新兵衛　井本萬藏
大倉新兵衛　津村嘉七
富田元吉　服部喜兵衛
村田佐右衛門　中村平三
辻井德之助　本田安兵衛
小林辰五郎　村林和助
曾原なか　松本常吉
錦平次郎　長谷川白觀
米田佐助　長野文藏
別所勘松　水谷半助
貝本多四郎　北村淺吉
林榮助　清水柳右衛門
尾崎源之助　伊倉幸市
笹山末吉　長谷川幸吉

橋本龜吉　濱口七太郎
小西多三郎　矢田長三郎
橋村治郎兵衛　北村茂右衛門
柘植善右衛門　中村源藏

◉大字中町ノ部

龜井齋九郎　竹内育次郎
丹羽元亨　殿村てつ
北村清八　野口保三
伊坂與三郎　長谷川はる
上田惣八　竹内三郎兵衛
竹内元貞　中西常吉
羽根伊兵衛　松谷卯助
田中又市　鈴木三鱗堂
岡文七　東畑卯兵衛
與野甚右衛門　伊藤幸助
永田幸太郎　東村いし
山口安之助　井田一平
錦常吉　細野松藏
刀根與平　伊坂きく
山崎安兵衛　三宅常三郎

橋本平助　石村種吉
奥村善兵衛　淺井敏行
村田音吉　上野貞利
松田小平次　山川作藏
村田七右衛門　竹内嘉方
森川定次郎

◉大字日野町ノ部

白塚代三郎　池部清兵衛
竹内庄兵衛　板倉善右衛門
弓矢茂三郎　堀口政助
川口平三郎　古川伊兵衛
村田甚右衛門　長嶋万平
坂倉啓助　水谷猪三
村上彌三郎　北村治兵衛
大井彌平　竹内靜二
長井惣七　中西嘉助
中村柳二郎　加藤三之助
八ッ木三之丞　奥出くま
廣田茂吉　岩井彌助
新口榮吉　梅田正吉

土井伊之助
安田友吉
中村平次郎
大倉恒七
鳥谷安吉
永井ねつ
中島喜右衛門
佐伯正雄
清玉堂
光田久藏
辻森源藏
竹内忠兵衛
竹内いち
大倉貞藏
澤村才藏
古川忠七
西村のふ
松川松藏

◎大字新町ノ部

中村喜兵衛
山本太兵衛
秋山新助
佐野參三郎
田所平助
松葉直七
森井よし
伊藤三十郎
森井ちゑ
淺野治兵衛
梅谷伊之助
淺野万吉
小家近藏
山口勝藏
松田重兵衛
鈴木安吉
堀田伊助

岡田又右衛門
中谷金之助
中須藤吉
服部伊平
幾石峻
井田正兵衛
上田多兵衛
三田かと
塚本重助
安武十時
森田新之助
西田菊松

◎大字湊町ノ部

〃
長井九郎左衛門
橋本七兵衛
殿村三郎治
瀧田傳藏
森田万吉
西山文次郎

西井久兵衛
小津芳藏
中谷常三郎
小津貞祐
上岡甚右衛門
前川久右衛門
大腹吉平
一島鍵次
山本春吉
倉田房次郎
黒田源七
鈴木齋助
高瀬豊助
鈴木藤兵衛
清水市兵衛
永野久兵衛
富岡辰藏
森川吉郎兵衛

長尾芳藏
武内静生
中村兵四郎
西田幸吉
小西熊藏
大泉文之助
河合久五郎
正井佐藏
濱地仁三郎
森伊兵衛
青木てい
山田豊吉
岩間代言事務所
櫻井七郎右衛門
牧田幸三郎
北村きく
辻岡熊吉
岩井清吉
田島豊吉

中村鹿藏
中村重兵衛
齋田準之助
中村幸之助
奥野正之助
森虎吉
石井くめ
酒井惣藏
鈴木喜兵衛
藤村仙藏
垣谷善七
前川伊助
泉藤兵衛
中里久吉
奥田猪太郎
山邊吉藏
常保安吉
松本萬藏
大平孝則

吉田芳藏
森下菊松
西村與三郎
森田新助
杉野德松
小林新聞舗

◎大字白粉町ノ部

角谷七郎右衛門

◎大字愛宕町ノ部

佐野直市
守口利吉
金谷誠次
佐野增次郎
竹中莊次
内山久松
蘇和とみ
辻惣兵衛
多郷兵治
佐野七兵衛

森川爲三郎
佐藤貞齋
神戸惣次郎
荒木半兵衛
柘植順慶
井田助九郎

池部正雄

森文藏
中谷勝藏
織田平吉
岡坂儀三郎
森岡幸之助
中瀨重三郎
西村惣七
森小兵衛
清水清七
竹中助七

國分修二　村田寅之助
尾鹿治助　小島萬五郎
井田安藏　西岡熊太郎
中瀬重藏　神田永吉
松島傳兵衛　村田久次郎
舟木嘉吉　津田竹次郎
小倉德松　高木次郎吉
中村直吉　鈴井豊吉
大川清吉

演劇場愛宕座（佐野直市氏持）

寄席（仝　上）

◉電信柱の燒失せし總數は參拾貳本なりき

◉成川縣知事には三十一日午前五時飯尾縣屬を隨へ急行腕車に乘し六時迄に松阪町へ着し池永書記官山本郡長其他縣屬警吏に指揮して救護方に奔走せしめ又本縣廳よりは白米五拾俵餘を荷送りし三十一日午前五時頃津市を發車したりと

◉罹災者の中には親戚知人の救助を得ること能はず辛うじて取出したる家財も燒失し狼狽の余り路傍に佇立し彷徨たる者も尠なからざるよしにて既に三十日午前五時清水縣屬の附添ひにて白米廿俵を災地へ急送し次で板倉屬の押送にて白米八十俵を運搬せしが其荷車には何れも三重縣御用と記したる白旗を押し立てたりかくて午前九時迄該米は悉く當地に着し郡役所門前に積立しが之を見る罹災人民等は悲喚の中にて大に感喜情面に顯はれしもありしと雖も實に憫然の至りにたり

◉池永書記官は三十日午前一時頃再ひ急行馬車にて來坂し山本郡長と打合せ進藤屬石井保安課長等の出張員及ひ永田松坂警察署長に命じ救護に勞を執らしめ白米貳拾俵を取寄せ同所魚町なる高等小學校及ひ繼松寺を以て焚出し場とし握飯を調じ罹災者又は避災者且消防夫等に給與し辻々へは其の給與すべきことを一般に知らしめんがため郡書記をして貼紙をなさしめたり

◉火災の際松坂警察署は忽ちにして燒亡せしてとなるが生憎同日は衆議院議員撰擧日なりしかば巡査は夫々手別けして各村落へ出張せしことなれば例つもより巡査の員も尠なかりしかば永田署長は火勢の頗る猛烈なるとを見るより容易く防き止め難きを認め寧ろ防火せずも人民に傷死なからんことを圖るが良策なるを豫想し專ら其事に盡力せられたりといふ

◉廿九日夜進藤屬と急行腕車にて來坂に相成たる石井保安課長は翌三十日午前二時電報を以て津警察署へ向け應援巡査を出張せしめんことを通知せしを以て同署は直ちに巡査廿壹名を召集し小坂巡査教習所教官之を引率し出張せられたり又四日市警察署も同樣電報に接したるに依り等しく急行せしめ神戸警察署も同一の處置を施されたりと云ふ

◉松阪町會議員淺山二三郎星合政輔坂井利兵衛若林太郎一區長代理者今井恒藏（其他略しぬ）等の諸氏は炎火の程に立ち非常に消防に盡し災後の救助法に就ても頻りに奔足せられたり但此諸氏は火災を免れたる人なり

◉本縣常置委員海野鎌次郎乾鷹郎の兩氏は三十日災地巡視せられたり

◉松阪町役場は全燒に付翌三十日より同地郡役所内にて事務に執掌せしが其後中町養泉寺内に移轉したり

◉松坂町の醫師は申合さねど擧つて罹災者へ無料診斷施藥すと貼紙したり

◉教員諸氏の盡力　飯高飯野高等松坂尋常小學校職員諸氏は火災の翌日より飯高飯野郡役所に會して火災緊要書類調製に從事せられたり

◉三郡有志者　本郡山川ホテルに設けありし第四區三郡有志者本部は大火后川井町なる擴武館に移せしが四月二日より西町なる松屋方を本部事務所と定めたり

◉高等官の見舞　山田區裁判所監督判事鴈松重明・同檢事三俣秀彦の兩氏は監督書記野田謙造氏を隨へ松坂區裁判所仮所に高津參事官は仝所に日置一志郡長は谷田郡書記を隨へ飯高飯野郡役

所に出頭して夫々見舞の辭を述へたりと

●山川ホテルの注意　大火の夜同ホテルに宿泊せる者粟原派の諸有志者を始め其他四五人の客人ありしが延燒の以前同家主人の注意に依り客人の所持品は悉皆持ち出し一品も燒失せしめたるものなく爲めに同家にては少しも諸道具を出したるとなしと是らは旅宿業者の鑑むべきとなり

●歩兵第九聯隊第十一中隊歩兵上等兵佐貫喜次郎氏は當時當地通行の途次該慘狀を見て悲痛に堪へず義捐金として金五拾錢を當町役場致にしたりと可感とにころ

●災地の燒け止には愛宕町内元門前町鈴井政吉宅にて止め白粉町の一側は樹敬寺の土塀其他の側は小津忠四郎宅にて止めり又愛宕町通りなる大火線は一方山口勘兵衛方にて消止め他方は垣鼻村境の堰にて止りたり

●火元地なる世古幸三郎氏(世古藤助の長男)方は直き直向びより出火せしことにて殊に狼狽せしも無理ならぬことなるが猛火炎々たる裡に幸三郎氏は馳せ入り諸道具の取出しに心を奪はれ着衣に火の燃へ移りたるをも知らで家内を馳け廻りたりしかば忽ち全身火と成り宛ら不動明王の活畫を見る如く吐嗟燒け死なんとする處を恰も好し市川巡査は認めて矢庭に駈け付け猛焰の中より拔け出して火を探み消し漸く九死を免れしめしも之が爲め本人は重傷をなし一兩日を經て死沒されたり且つ市川氏は右手の指に微傷を受けしといふ

●災地へ出張せし津警察署長石井警部は巡査廿一名を率ひ三月三十一日午后一時歸省し又同地へ應援の爲め出張中の宇治山田警察署詰巡査十五名は四日市警察署詰巡査廿名松阪町に着すると同時に歸省したり

●四日市町にては町會の決議を以て白米十五俵を送り同町長は大平松坂町長へ宛て見舞狀を致し又委員二名則ち南川三右衛門安藤新兵衛の兩氏此の任に當り三月三十一日一番汽車にて出發し當地へ着されたり

●津警察署員一同は各應分の義金を投じて罹災者を救助し尚又松阪警察署員を助くる爲め人足百人を出して其の取片付を手傳はしめたりと

●松阪町の罹災者は燒け殘りたる繼松寺來迎寺清光寺及び劇場相生座に假住して雨露を凌ぐもの多し

●松阪町役場員は災後事務非常に多忙なるが爲め各交代して徹夜事務に執掌し居れり

●火災の際松阪町大字魚町と中町の入口等の消し口に專ら盡力せしは松ヶ崎村大字三渡(六軒)岩崎直三郎安藤芳松の兩氏の組織にかゝる消防夫數十名及阿坂村民百名と高野西肥留兩村の喞筒組なりしと云ふ

●松阪郵便電信局にては災後遞信事務繁忙にて在來の局員にては不足を感ずるに至りしかば更に津市同局より拔手一名局員一名を出張せしめ執務を助け居るよしなり

●竹下警部長は四月一日歸縣の途次津市停車場に着するや出迎の石井警部を隨へて當地に出張相成火災後の實況を巡視せしと其の治務に保厚なる家門に入らずして直ちに災地に入れり彼の三たび家門を過れども入らずといふ神屬の昔にも愧ぢざらん乎

●此の火災の報が伊勢新聞の第一號外を以て四月三十日の夕刻大阪市ニ達するや同地在住の本縣人及ひ關係深き人々は直ちニ義捐を募集せんと思ひ立ち殊に加賀卯之吉氏は村山龍平菅沼政經牛場卓藏押田長助四氏を訪ひ募集の協議ニ及ひし處孰れも同意を表し則ち四月二日の朝日、毎日の兩新聞に公告せんことになりたる由美擧と謂ふべし

●松阪町燒失戸數は松阪警察署の取調べに係るものを聞くに正に戸數は一千四百六十戸にして内湊町三百二十五戸新町六十戸日野町三百二十戸白粉町三十五戸愛宕町二百五十一戸中町三百二十九戸魚町百四十戸なりしと云ふ

●伊勢新聞社が義捐廣告を發するや江湖の慈善

家は爭ふて義金を投じ四月二日に至り數百圓の多きに至りしを以て不取敢内金三百五拾圓を取纏め同社員をして松阪町長に致し直ちに罹災者へ配當せんことを依託せり

◉一志郡各町村に於ても此の慘狀を愛ひて四月一日白米三十俵を數輛の車に搭載して松阪町役場に送りたり

◉松阪町の大火は實に其猛烈なりしとは言語の能く形容すべき處にあらざるを以て或は燒死者ありとか又は壓死人ありとか區々の風說頗はれ既に松阪警察署に於ける留置人の如きも解放する暇なかりしより燒死したりと專ら噂させるを以て伊勢新聞特派員は四月一日永田警察署長を訪ふて左の問答を爲せりと

社員松阪町今回の大火は其實況を目擊したるが其猛烈なりしことは今日思ひ起すも慄然として一層に粟を生ずることなれば或は燒死したりとか壓死したりとか區々風說の起るは怪しむべきことにあらず扨其風說に付て尋ねやしたし四月二日までありしが貴署の燒跡の灰燼中より手錠三個出でたるに何れも鎖錠したる儘なりとのことなり留置人の燒死したるならんといへり果して然るか其實狀を承りたし

署長尋の如く燒跡の灰燼中より手錠の出たるより留置人の燒死したるなりとの風說のあることは小官も耳にする處なるが決して左樣の事あらず留置人は直ちに解放したり尋承知の通り實に火勢猛烈にして此の大事に及ひたることなりしかば書類等も取出すに困難したることにてありしが幸ひに解放したる留置人の助けを得て取出すを得たる事なり

社員尋話しに依れは留置人の燒死したりといふことは全く虛說の如く思はるゝが其后留置人は如何尋處置なりしか或は復歸せしや又他警察署の留置場へでも尋預けになり居るや尚ほ留置人の住所姓名をも承りたし

署長留置人を除く外かは其翌朝來りしに付旅費を與へて一旦歸宅を命じ置しが一名は來らず何れ逃亡せしか判然せず其住所姓名は飯高郡波瀨村大字蔭方西谷鶴吉宮本茂吉宮本多助長野與吉とやす者なり

●伊勢新聞が義捐廣告を出すや江湖の慈善家は爭ふて義金を投じ其額數百圓の多きに達したるを以て第一回分として四月一日午后五時社員が二人曳急行腕車にて「伊勢新聞社募集救恤金送達係」と大書せる旗を飜へして午后六時當地に達し郡衙に山本郡長を訪ひたるに不在なりしかば同衙に於て大平町長に致して直ちに罹災者へ配當せんことを依托し左の領收書を受取り歸社せしよし

証

一金三百五拾圓也

右者當町火災者へ貴社にて募集相成候義捐金中第一回分御送金相成正に受領候也

飯高郡松阪町長　大平孝則印

明治廿六年四月一日

伊勢新聞社總理松本恒之助殿

◉飯高飯野郡役所員一同は手を分ちて四月一日より罹災者の野宿を取調べたるが右は同日より一天暗憺雨を催ほすの恐れありしに因ると云ふ

◉松坂町會議員は災後前後を謀ずる爲め四月一日午前九時より午后六時まで郡役所に會合して協議する所ありたり

◉備荒貯蓄金支出の停止　本縣廳にては去ル廿九日の大火當夜より知事書記官等初め數多の吏員出張し備荒貯蓄金を支出し米穀買收し罹災者の救助に宛てたりしが昨三日限り右の救助を停止したと

◉救助米の餘剩本縣廳より支出したる救助米は百貳拾俵なりしが四月三日に至り救助を停止したるに拾五俵の餘剩ありたりと

◉明治元年より今回の大火に至る松坂町廿六年間の火災の總計を聞くに

明治元年火災二　罹災戸數六　仝坪數一一二

仝三年　仝二　戸數四〇　坪不詳

仝五年　仝一　仝一　仝

仝六年	仝一	仝一	坪四六
仝九年	仝四	仝一〇二	坪不詳
仝十年	仝一	仝一	仝
仝十四年	仝五	仝一四	仝
仝十七年	仝一	仝一	仝
仝十八年	仝一	仝一	坪二六
仝廿二年	仝一	仝一七	坪三四二
仝廿三年	仝一		坪一一
仝廿六年	仝一	仝一五〇〇	坪未調査
合計	火災二一	戸數一六八五	坪不詳

以上如此なれば今火災の度數に於て本年は全災數の二十一分の一なれば罹災戸數は一千五百戸にして其の被害戸數は既往二十五年間の被害戸數に八倍するものなりと知るへし其災害の大なる知るべきなりと

◉松坂町大燒以來此の慘事を奇貨として格外に材木桶家具其他各物價を昇騰せしめて憐れなる罹災者が焦げ殘りの財嚢を倒にせんとする投機の商人多しといふ是れ德の賦殘忽の處狠

◉津市松坂間は商用の取引最も多くして就津商人より松坂の商家へ仕送せる者き由なるが今ま津市商家の內今回の松坂大火の爲め損失の重もなるは分部町柳屋(砂糖商)方にて貳千圓大門町多門屋(糸屋)方にて千圓程可れも損失なりと云

◉長崎縣下北松浦郡福島村山口仁助と云ふは過伊勢參宮と思ひ立ちて宇治山田に來り無事神宮の參拜を終へて歸途松阪町に到れは前日來の大火にて全街の半は全く灰燼となり終り戉力者は田畝に露宿して凍餓交も臻るの慘狀を目擊し同情の感禁する能はす多くもあらめ旅費の中より金壹圓を撈りだし邸回中の飯高飯野郡書記米山彦次郎松阪町役場書記猿木惣太郎の兩氏に對して些小ながら罹災救恤の万分の一に供せられたしと右の金子を差出したるも見れは其風体甚だ見苦しけれは歸途の旅費も差支あるべきを察し米山氏は志は篤けれとも歸途の難儀も計り難ければ所持して路用に充つべきを論したるに同人は之を押返しながら旅費盡きなば露宿しても他迷惑には成るまじければ是非に受納して救恤に供せられたしと說諭に聽する色もなきより米山氏は深く奇特を謝し官名入りの名刺に受取を認め同人に與へしかば同人は大に喜び直に歸國の途に就きしといふ嘆きには前文に記るせし軍人の惠與あり今又此の慈善の道者あり與に是れ滿客の双美とや稱せん

◉當地の雜踏、火災地實見、二の午參詣、參宮道者通行、三者一時に至り四月三日は當地の雜踏云はん方なく往來織るが如く扁摩壓擠せり

◉天春代議士は火災實視として來松し知己の人々を見舞ひ夫れより栗原亮一氏を訪問し數時談話したり

◉二の午夜中の寂寥四月三日二の午夜中の光景は頗る寂寥として往來又旗影なき程なるのみならず人々皆愁色を帶び他所の見る目も亦氣の毒のと共なり

◉露宿者三拾戸あり　飯高飯野郡役所にては四月一日効外に野宿せる者を取調べたるに尙三拾戸計ありたれば是等の野宿者は直に岡寺遊病院の兩所に移したるより仝夜より翌二日への降雨に就れも雨路を凌ぐを得たり

◉三月廿九日午后一時頃より翌三十日午前への風は頗る速度强く爲めに松阪の大火災に至りし次第なるが聞く所に據れば此の强風は一志郡以南は極めて猛烈にて津市よりは一層甚しかりしと又之に反して伊賀國一圓は强風なをありしてとなしといふ

◉四月一日午后六時より郡吏警官立會の上燒跡の取調に着手せり

◉松阪町火災に付ての焚き出しは規則上四月一日限りの處松阪町會の決議に依り二日間繼出し延期の儀大平町長より出願ありたるを以て同夜十一時進藤縣來阪せられたり

◉罹災者救助として宇治山田町各大字より義捐すへき金額及雜品にして三月三十一日より四月一日までに纏りたるものは(金百九拾八圓六拾參錢宇治山田町民義捐、四斗入白米五拾貳俵と

壹斗六升五合仝上、手拭貳反鰯素干千匹一色鹽貳俵十瓶拾個但手提げ共）等にして其他は專ら募集中なるが既集の分は已に夫々松阪町へ廻送し仝町長村井恒藏氏も同町を代表し見舞を兼ね義捐金穀を持參して且つ仝郡衙に出張して上田郡書記に面會せられたりき

◎松阪町災後の奇觀ともいふべきは弦聲と泣聲笑語と悲音酒臭と焦臭握り飯を喊く者と住者を唯する者野畔には露宿する者と青樓に美人を伴ふ者、一面には大焦熱より餓鬼道に迷ふ者を見、一面には遊仙窟より桃源に入る者を見る是れは此れ松阪街中、可愛の遊廓を過つて災後の焦土を訪ふ者最も奇異の感を抱く所のもの、有情が無情が世はさま〴〵の櫻なりける

◎永田警察署長は火勢の猛烈なるを見て防火より寧ろ死傷負傷なからんにとに巡査を指揮して大に盡力したるより今日の取調にては些かに死傷者は一名に止りたるは實に不幸中の幸といふべきなり然れども同署員は職務とは言ひながら孰れも家財を捨て之れに盡力せしを以て家財は盡く失ひ身に着するものは只だ官服のみとなりたるもの夥多ありといへり

◎火災に付義捐金穀も追々增加して已に第一回の配當を行ふに至りければ備荒儲蓄より支出すべき救助焚出米は四月三日限り全く廢止するとになれり

◎松坂町に於ける罹災者は取敢へず備荒儲蓄金支出して救急の手續に及ひ義捐金穀は町役場に於て之を保管し居たる處既にして配當方法も確定したるに依り四月三日午后四時より愛宕町龍泉寺中町法久寺白粉町來迎寺の三箇所に役場員議員區長受持を分ちて之に出張し第一回の配當を爲したり

◎松坂町會議員及び各大字區長會議の結果は罹災者救恤義捐金米第一回配當法として左の三項を議定したり

義捐米金第一回配當方法案

第一項

一義捐金米第一回配當方法は類燒に罹りたる戸數並に人々に應じ左の通り平等に配當す

一白米當座の飯米として一人に付壹升五合宛

一金員は同醬味料として一人に付拾錢並に炊具料として一戸に付五拾錢宛

一三才以下の幼者及出寄留者は本項配當の數に加へず

第二項

一前項の米金を配當するに當り罹災の厚薄を稽へ尙多少の資力ありと見認むる者に對しては懇篤說諭を加へ本人をして可成受けざらしむるものとす

第三項

一第二項に依り米金の配當を受けざる者の姓名は當町適宜の箇所に掲示し尙新聞紙を以て公告し本人の厚意を世上に表明する者とす

◎宇治山田町長村井恒藏氏は松坂町罹災者の不幸を痛く憫み自ら卒先して各大字を說き廻り用掛りと共に救助の金穀を募集し而して同意義捐する者あれば自ら救助を得たる者の如く謝辭を述べ四月一日自身當地に出張せしが一度其慘狀を實地目擊しては又慈心の彌まさりて一層賑恤の念を厚くし罹災人民疾苦の萬一を療醫せざるべからずとて役場員を督して猶も義捐の事を勸誘せしめしが既に金穀合して五百有餘金を得日々當地へ廻送し居る由奇持の事と謂ふべし

◎官命を帶ひて公事に盡力するは素より當然の事にして今回の火災に松阪警察署巡査の防禦立退等に力を致せしは然まで言ふにも足らざれども中に就き松阪大橋以南に止宿し若くは家居を占め居たる巡査は非常警鐘を聞くと同時に當番とも火事場に馳け付け火防の事に盡力したるに依り自家の貨財は皆な婦人任せとなり多くは一點の物品だにも引出し得ず財產は悉皆烏有に歸したる由なれは當人は着用する官服のみとなり家族は着のみ着の儘なりし趣なり公私の分を

重んじて遂ニ是れニ至れるは誠ニ氣の毒の次第とや言はん

◎天皇皇后兩陛下　の下賜兆を憐ませ給ふは曰すも畏き事にして殊に天災地變に罹り饑寒に泣き凍餒に號ふの不幸に會するものあるを聞召し給ふ事なとあれば常に救恤の金員を下賜せさ給ひて愛養撫育の資に充てさせ給ふ御事なれば雨露の　聖恩に浴せる我々臣民は其大御心を勞させ給ふ毎ニ感泣ニ堪へざる所なるニ今回

聖上　皇后兩陛下は當町不慮の火災を聞召させられ深かく軫念を勞させ給ひ救恤費として金千五百圓を御下賜相成たる次第にて四月五日宮内省より三重縣廳へ電報あり今に始めぬ事ながら最も畏き限りニなんある

如此　兩陛下の松阪大火を聞食され救恤費として内廷より金千五百圓を下賜せさせ給ひし御事の有り難きニ仍を是等の御賜金のみニ止めさせ給はず侍從を差して疾苦を問はしむべしとの畏き

旨慮降りしに付宮内省は四月六日を以て三重縣廳に對し東園侍從御差遣相成るべきに付侍從は今翌夜發途すべしとの旨を電報せり

◎竹下警部長は四月三日津市出發汽車にて四日市に赴き同地より共立汽船に搭じて熱田に渡り同地發の汽車ニて上京したり右は警部長會議ニ列せるとと松阪町火災の實況を上申する爲なりとぞ

◎舊紀州藩士ニして今は三重縣士族たる松阪新町の宮崎口德川氏は深く今回の火災を痛み詳かニ其慘狀を取調へ之ニ三月三十日來の伊勢新聞及び號外を添へ舊紀州藩主たる侯爵德川茂承氏の許へ通報したる趣きなり舊君臣の間柄ニして而かも舊藩領の火災ニ關する事なれば同家ニ於ても子愛の意を表されたりき

今同氏よりの書翰を得たれば左ニ揭ぐ

以手書啓奉上候春和之節ニ御座候處二位樣奉始被爲遊御揃益御機嫌克被爲在恐悦至極奉存上候乍憚御出仕の砌時下御伺之義宜敢御執達被爲成下度奉願上候扨客月二十九日午後七時半より三十一日に渡り別紙伊勢新聞へ記載の通り舊御領内松阪町創業以來未曾有なる火難に罹り其受災人民の内老若婦女子殊ニ貧窮者の慘狀等は誠ニ以てヤト樣も無御座次第憫然の至りニ御座候依て此頃中各地有志の輩追々救助等仕り且宮内省よりは去る三十日罹災戸數御取調に相成候程の義に候得ば最早御家所樣に於ても何とか思召も被爲在候義とは奉存候へ共其慘狀不堪黙止候間私より上申仕候義は誠に恐入り候次第には御座候得共右新聞及附錄並に罫圖面等相添へ御手元迄慥實奉申上候間御憐察之上早速何分の御救助被爲在候樣願度此段奉申上候恐々敬白

廿六年四月五日　松阪新町　宮崎以德

德川二位樣御家令　齋藤櫻門殿

追て私義は兼て先般來より北勢鈴鹿郡地方に罷趣居候不在中當地より報知に付直に歸宅仕候處幸に居町は罹災不仕候得共何分早卒の際詳細取調べ可申上筈も未だ無御座候乍爾御下問之次第も有之候へば逐一御報道可仕候先は新紙にて御承知被爲成下度此段副申仕候以上

◎池永書記官當地へ出張す　今回千五百圓を松阪町罹災者へ御下賜相成りたるを宣布せん爲め池永書記官は昨七日當地へ來りしが即日歸廳せられたり

◎東園侍從火災地巡視の摸樣　當町の大火災實地巡視として本月七日來縣せられたる侍從子爵東園基愛氏は翌日津市大觀亭を旅館と定められたるに付仝日午前七時半頃嗹員侍從屬楠成允氏を從へ成川本縣知事は山田縣屬を從へ仝道旅館を發し内田警部の前馳にて飯高郡松坂町に向ひ發足せられたれば飯高飯野郡長山本如水松坂警察署長永田幸太郎松坂町長大平孝則の三氏並に神戸鈴止の兩村長は午前八時頃より一志郡三渡驛まで出張し仝驛にて出迎へ山本郡長永田署長の二氏は内田警部と共に前馳し其他の出迎者は侍

從の一行に從ひ直ちに松坂町に向ひたり斯くて飯高と一志の郡界に來るや松坂町會議員區長等三十四五名一齊に整列して出迎するあり飯高郡松江村大字船江の藥師前には一町二ヶ村人民惣代及罹災者等百四五拾名の出迎あり暫くにして一行は當地に入り豫て旅館と定めたる本町小津新五郎氏方に投じ暫時休憩を取られたり此際郡役所にて取調へ置きたる

罹災調査書、火災地圖、景況上申書、救助に關する取調書　の四通を山本郡長より呈出に及び又出迎者の名刺をも呈出に及びたり休憩中松坂區裁判所判事富岡信武今檢事高松範重の両氏訪問あり後ち侍從知事其他の諸官同道徒歩にて同家を出で本町通りを大手に出で魚町に至り火災地を實見しつゝ飯高飯野高等小學校へ至りぬ同校には松坂神戸鈴止の三町村人民惣代及町村會議員區長等相集り校の門内に整列して出迎ひ校の樓上に於て一統は侍從に面謁を得爰にて東園侍從は正面に直立し一場の談話あり其要領を記すれば

今度の大火災は實に非常の事にて此大火の報上奏に相成りしより深く

宸襟を惱ませられ罹災人民賑恤の爲めに

聖上、皇后

両陛下より金千五百圓を下し賜し尚火災地難民の實況を視察すべき旨を以て今度拙者を御差向けあらせられたる次第なり火災に罹りし一同は嘸困難の事と深く相察するなり此上は充分丹精を盡して燒失已後の挽回を計らざるへからず云々

一同は實に感泣の情に堪へず只々　聖恩の深厚なるを肝銘するのみなりき

右終りて恩賜金千五百圓(正金)の御包を成川知事に知事は山本郡長に郡長は大平町長を漸次下附したる后成川知事にも簡短に談話あり其要は

當地今度の火災は實に非常にして三重縣に在ては未曾有とも云ふべき災害なり此火災長くも天聽に達し畏きには賑恤の爲め金員を下し賜はる旨宮内大臣より電報あり尚ほ日は侍從東園殿を御差向け罹災の實況詳しく仰付けらる如此

叡慮を惱まさせられし段は一同と共に何共御禮の申上ぐ樣もなき次第にて只々

聖恩の海岳無量なるに感泣するの外なきなり

以上は拙者の御一同に望む所は燒失に罹りし不幸は今更悲んでもかへらね事故精神を搖かず氣力を落さず十分勉勵と丹精とを以て產業損失を回復し松阪町をして火災已前の如く繁昌の土地と爲さざるへからず如斯奮發勉强して舊の松阪町となすときは上は

両陛下海岳の御恩に報ひ奉るの道理にて下は御一同の祖先をも慰むる譯故必ず力を落さず相互に心を合せ力を盡して此困難に打ち勝ち已前の家產に回復する樣心掛らるべし之れ拙者が一同に對して深く望む處の旨趣なりと云々

成川知事の談話終れば三町村長は數歩を進み出で恩賜金を拜受し大平町長は　聖恩の優渥なるを拜謝し誓て回復の事に微力を致さんと陳答し尚ほ　両陛下の萬歲を祝せんと告け一統は

両陛下の萬歲を三唱せしときは知事始め列席の者悉く涙を流さざるものなかりき

右にて全く拜　の式を終へ一行は退出となり一同御門前内に整列して見送りたり時に午前十時二十分頃なりし夫れより火災町字の見分となり何れも徒歩にて先つ魚町より美濃屋小路、日野町、湊町、平生町、愛宕町、神戸村大字垣鼻、天神小路、門前町、鈴止村大字矢川、油屋町、藥師小路、鹽屋町、白粉町を巡見せられ爰にて富岡高松の判檢事は辭し去り夫れより去る明治十三年御巡幸に當り行在所と定められたる有名の古刹崇敎寺内に入り同寺内を出でて新町に入り日野町横町より油屋町職人町當念小路を經て中町に出で全く火災町村の巡視を終り歸館せられたるは午前十一時四十分頃にてありし此日天氣乾燥往來塵焰上り面を汚し喉を掠め歩行頗る難澁なりし

にも拘はらず待從知事は少しも意とせず一々巡見せられたるは優渥洪大なる　聖旨に奉對せらるゝの途と思へば　今上が如何に斯民を愛々ゝの深きに感泣せずんばあらずサテ一行は旅館に引取られ午餐を終へられたる后ち午后零時三十分頃旅館を發し來坂の行列と異なるなく先着の進藤縣屬も一行に加はり腕車を駈りて當地を出發せられたるが三市村會議員區長人民總代及罹災者は出迎の際と同じく船江なる藥師寺前に整列して奉送し山本郡長永田署長北村郡書記大平町長外に先發し居りたる神戸詰止の兩村長等は一志郡三渡驛にて見送り待從は下車して山本郡長其の他に挨拶ありて爰にて分袂し一行は津市へと來着せられ入江町大觀亭へ投宿せらるに聞く一行は翌九日午前十一時發の滝車にて草津に出で車鐵にて歸京せらるべしといふ

◎東園待從の義捐　實況視察の欽命を帶び火災地を巡視したる待從子爵東園基愛氏は罹災の慘狀を實視して其不幸を憐み金拾圓を義捐し飯高飯野郡役所へ寄贈せられたり

山本郡長の示達　天皇　皇后兩陛下より救恤として金千五百圓を松阪罹災者に御下賜ありしに付山本郡長は本月七日左の示達をなしたり

松坂町役場鈴止神戸兩村役場

松坂町火災の顧慮然に被思召　聖上皇后兩陛下より金千五百圓下賜せられたるに依り目下救恤の補助に充つべき旨宮内大臣より被相達候條遺漏なる　聖旨罹災者は一般に貫徹候樣篤と相示し尙救恤方一層注意取計ふべし

右本縣知事より訓令に依り示達す

廿六年四月七日　飯高飯野郡長山本如水

◎高等尋常の兩小學校は去る八日より向ふ二週間休校したり

◎德川侯爵松坂火災に付義捐金を送る　舊紀州藩主侯爵德川茂承氏は松坂火災に付金五百圓を義捐し昨日成川縣知事へ其分配を依囑し來りたり右に付同知事は直ちに飯高飯野郡役所へ送りたるが同地は元其領地たりしより此の義捐あ

りしなりと

◎常盤井法主殿の火災地巡視及び御慰問

高田派本山專修寺法主常盤井堯熙師は當地今回の火災に就き帆山唯念・小幡龍年大西靈純・栗原恭辨高志廣覺の五師及び中堀用度掛を隨へ罹災寺院の住職及び家族並に同地同派の門徒に對し慰問を兼て火災地巡視の爲め本月九日當町に着されたるが今其詳細を記さんに同一行の午前七時本山を出發して一志郡嶋貫村松金に少憩するや當地及近傍の善男善女は孰れも三渡村及沼道諸村に出迎ひ同十一時頃到着第一に常念寺願證寺の火災に付き假安置の佛尊を拜して住職に對し懇篤なる慰諭あり終つて本覺寺に入り暫時休憩の上出でて本堂に待設けたる七百有餘名の參集者に又々懇篤なる慰問あり次に高志廣覺師起つて巡視の順次を披露し次に帆山唯念師は今回法主殿より救恤金の下賜ありたるとより火災地を巡視せらるゝに至りし趣旨を述べ終りて一同は同寺に畫飯を喫し午后二時過ぎより燒失地を巡視して同五時前歸山の途に就かれたるが見送の人々も頗る多かりし

因に記す別項記載の救恤金下賜に付各寺一名づゝの門徒惣代人は孰れも法主殿に答禮を爲したりと其人々は藤村文兵衛小津藻右衛門若林太郎一戸田與三郎田中兵七（以下略す）の諸氏なりし

常盤井法主殿よりの救恤金左の如し

金七拾七圓　燒失戸數一戸に付廿錢ッゝ

内

金拾七圓　正圓寺門徒燒失戸數八十五戸へ
金拾七圓八拾錢　常念寺仝上八十九戸へ
金拾六圓四拾錢　願證寺仝上八十二戸へ
金拾貳圓　本覺寺仝上六十戸へ
金三圓八拾錢　眞蓮寺仝上十九戸へ
金四圓八拾錢　常敎寺仝上廿四戸へ
金壹圓　善線寺仝上五戸へ
金貳圓貳拾錢　常法寺仝上十一戸へ
金壹圓　常念寺昌樹庵へ
金壹圓　願證寺へ

右門徒に金員を下賜するに際して本山總務所より左の書面を添へられたり

松阪町何寺住職　何　之　誰

其寺下門徒容月廿九日居宅家類燒に趣定て當惑の段御察被爲在候家族一同無異事候哉右爲伺尋各金弐拾錢づつ被下候伺慰問の趣及傳達候也

明治廿六年四月七日　本山總務所

◉恩賜金の配當に就きて　天皇　皇后兩陛下より當町罹災者へ救恤として御下賜遊ばされたる金千五百圓の配當方に就きては當局者は罹災者一同に滿足を與へ且ツ　兩陛下の大御心を安じ奉らざるべからすと頻りに盡力せしが罹災者より適當の惣代人を撰出せしめ右の惣代人は松阪町大字本町善線寺に會して其筋の人々も立會の上尚ほ篤くと協議せし處結局罹災地の町村長に適當の割當方を囑托したるが右に付松阪町長大平孝則神戸村長加藤正謙鈴止村長青木七三郎の三氏は本月十三日會合して熟議の上恩賜金は罹災者の戸數と人員ニ配當すると總額を二回に配當し最初一回は總額の八分位を分配し二回は殘額を分配すると右の配當方に從事するものは罹災者より撰出せし委員之に當ることを決議せられたりたり戸數割當は一戸ニ付五拾錢人口割當は一人ニ付拾五錢なりと聞く右は本月十八日午前第九時より午後四時までの間に於て當町大字中町養泉寺内に於て遭難者の戸主又は世帶主へ第一回の配當をなしたり

◉松阪地所の騰貴　同地大火災の後は普請をなするものもなく定めて久しく皿屋敷となるべしと思ひの外松阪大通りの地所は買人のみにて地價俄かに騰貴し中町、日野町は一坪三圓より五圓までに引揚げしも容易に手離すものなき有樣なりと云ふ

◉酒藤出店の三州瓦　松阪町今回の火災に就きて同町魚町一丁目五番屋敷に設置したる桑名町酒藤出店の三州瓦各窯元と協議の上義捐の萬分一を補はんが爲め非常無比の廉價を以て販賣するとゝなりたるよし

◉伊勢街道の測量縣屬の出張　當町の大火に付きては伊勢街道の中屈曲の個所測量として本縣屬後藤久次郎氏は庶吏一名と共に四月十一日當地に出張したり右に付飯高飯野郡書記芳賀傳之丞松坂町助役岡田保尙兩氏も測量個所に立會せられたり

◉積善の餘慶　志摩國英虞郡和具村竹内愼一、山岸久朗の兩氏は四月十四日飯高飯野郡役所に來りしに郡長不在なりしかば郡書記北村六三氏に面會して云る樣予等は同村を代表して來りたる大災にて實に驚き入るの外なし然に我村は安政年間海嘯の時松坂なる長崎屋庄次郎と云へる人は開へ慈善家ニして吾村始め數ケ村民の飢餓且夕ニ迫り將に死ニ瀕せんとする時其情況を視察して同氏より數百圓を無利子三十ケ年賦の恩借を爲して而して該金は恩借のとして其后去る明治元年迄に悉皆返金せしが該家は今回に罹災者中に非ざるか御繁務中をも顧みず御取調べを願ふは本意ならねど果して遭難者中に在らば其恩義ニ報ひたければ是非御取調ニ預りたしとあるニより北村郡書記も其の志の切なるニ感じ他用を抛て取調べたるニ屋號のみニては判然せざりしかば役場員も立會の上人を派して取調べたる處全く大字新町類燒者の一人たる一島鍵次氏なると判然せしニ付右の結果を竹内氏等ニ申達したる處兩氏は郡吏員等の懇爲なる取扱を謝し夫れより同家を訪問して種々談話の上該家の主人へ報恩金として一封の金子を贈りて立去りたりと云ふが實ニ近來の一美擧といふべし

右ニ付き今聞く處ニよれば該一封の金員は弐拾圓の由ニて是れより先き當町大火の凶報該村に達するや翌々日直ちに村會を開きて一島家の先代庄三郎氏より被りたる舊恩に報ひん爲め此際其の子孫を求めて同金員を恩返するの議を決し則ち山本、昔内の兩氏ニ一村代表者の名實を以て托し來松せしめたる次第ニて聞く處ニ據れば今を距る四十年前安政元年十一月四日大地震な

り加ふるに海濤溢れ來りて和具村の如きは家屋二百余戸を流亡し即死三十九人負傷者も之ニ準じ夥しく大小の船舶、漁具をも悉皆海水の漂奪する所となりしニ際し一嶋庄次郎氏は深く其の慘狀を憐み窮民を賑恤せんとて鳥羽領主へ願ひ出でて數百両を同村被害民ニ惠與せしかば村民は其の深恩ニ感じ其の后は年々一村の代表者を選みて暑寒、年始の時禮を怠らず例として來りしが明治六年ニ及び同村の漁事大ニ豊かニして自村維持の目的も全く立つニ至りしかば舊時ノ恩を謝して返納せし由なるが之れニ由つて今回ノ美舉あるニ至りたるなりとぞ、事少しく重複ニ渉る所あるも其ノ德は沒するニ忍びず斯くは委しく物しぬ

◎行客涙を揮て十金を投ず　去廿九日大坂市東傳馬町貳丁目青木忠兵衛なる人は伊勢參宮を爲し歸途當地災地の模樣を實見して其慘狀を愍み態々町役場を訪ひて町長に面會を乞ひたるに折惡しく不在なりしかば書記田淵岩吉氏ニ面會し

當時の凄景を聞き涙の中より金拾圓を出して遭難者へ寄贈あらんことを懇望し立去りたりとぞ實ニ奇特のところ

◎外國人義金を投ず印度　孟買府の豪商ゼエン、タタ氏は今回伊勢大廟參拜の途當地大火災の模樣を實見して金貳拾圓を當町罹災者救恤として五月六日坂高飯野郡役所へ寄贈を依頼したり仝日大坂市今橋壹丁目松坂屋秋馬新三郎(金拾圓)同上齋藤善德(金三圓)の両氏より義捐したり

◎飯高飯郡私立衛生會の義舉飯高飯野私立衛生會ニては四月三日松阪町大字本町なる竹内涼齋氏其他會合の上昨四日より向ふ三十日間施療劵三十枚を發し罹災者にして疾病ニ腦める者無料ニて施療すべきを議決したり實ニ義舉として賞すべきと共なり

◎注意　昨幾日或ハ本月トアルハ四月中ノ事ナレハ諒焉

當地大火災の當時盡力せられたる各官吏人名如左

松阪區裁判所員

判事　富岡信武　檢事　高松範重
書記　渡部敬之　仙石好生
　　林　遙　登記　内田俵五
　　花房駒吉　青木公敏
登記　服部鏻造　會計　中島太六
登記　長谷川直吉　登記　山本伴藏
仝　森　淺之助　執達吏　川喜田治兵衛

飯高飯野郡役所員

郡長　從七位　山本如水　郡書記第一課長　上田實
仝　第二課長　遠井清純　仝　上野貞利
仝　北村六三　仝　安武十時
仝　芳賀傳之丞　玉置晦生
　　南雲延五郎　長東　椹
　　藤田秀吉　久世安重
　　北本留次郎　中里慶藏

松阪警察署員

署長警部　永田幸太郎　部長　淺井餛次郎
仝　渡邊恒三郎　仝　友田辰雄
巡査　景山多橘　山本信太郎
　　戸田與三郎　竹内伊之助
　　服部保　村岡一馬
　　森谷太郎吉　南出伊之助
　　松原政記　北川三次郎
　　福持龜之助　萩原善之丞
　　神谷善八　國府貝次郎
　　伊藤竹次郎　小川熊太郎一
　　中村政行　久保德三
　　神谷倫五郎　山田房次郎
　　白井九万男　上野覺太郎
　　原　三次　伊藤德三郎
　　市川慶太郎　山下猪太郎
　　村田省三郎　和田正道
　　笑浦慶太郎　成田松之助
　　松林朝佶　喜多龜吉
　　竹中捨十郎　池田虎次郎

警部池龜一郎氏は賜暇を得て舊里鹿兒島へ立越不在中なりし

松阪直間稅分署員

署長 田中好謙　高木敏行
澁谷虎之助　鈴木章貞
中村英藏　服部喜曾郎
山田猛　野嶋熊太郎
澤種次郎

松阪郵便電信局員

局長 林歌次郎　青木房之助
拔手 後藤爲三郎　花房金郎
坂井和兵衛　小川才兵衛
村田幸吉　土方齋吉

松阪町役場

町長 大平孝則　助役 岡田保尙
收入役高瀨豊助　書記第一部 田淵岩吉
仝 猿木惣太郎　仝 岡金三郎
稻葉謙郎
第二部荒木半兵衛　仝 服部幸吉
仝 長谷川吉右衛門　仝 小泉彦之
仝 爲田嘉太郎　（次第不同）

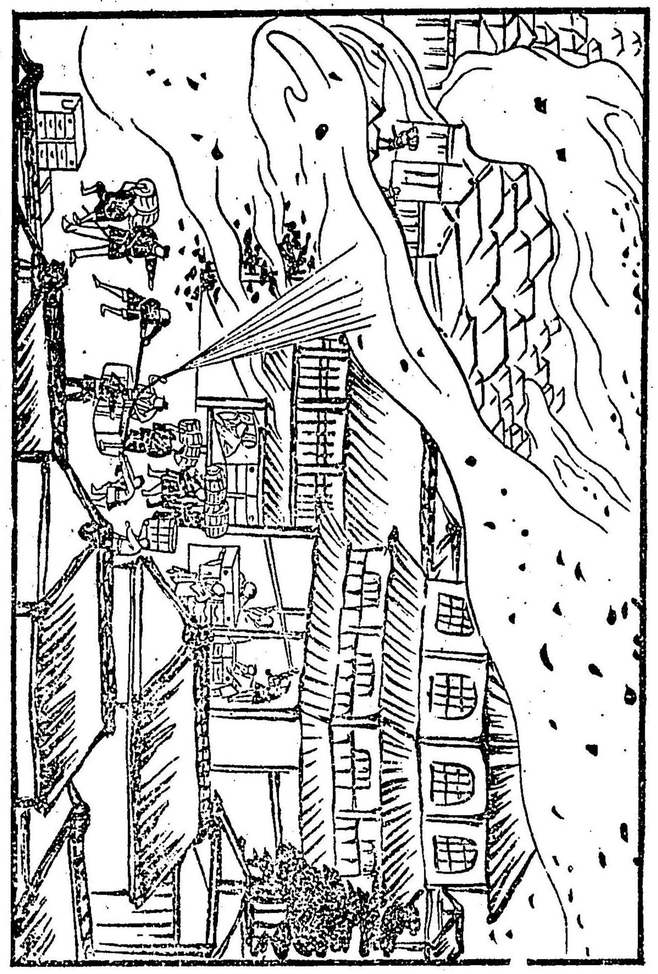
神戸村役場

村長 加藤正謙　助役 中津精一郎
志村萬次郎
鈴止村役場
村長 青木七三郎　助役 梅田喜助
當時の町會議員左の如し
坂井利兵衛　田中文兵衛
若林太郎一　小津藁右衛門
嶋利助　龜井齊九郎
竹內庄兵衛　古川伊兵衛
濱地仁三郎　橋本七兵衛
佐野直市　加藤嘉三郎
上橋茂兵衛　川北新兵衛
上岡甚右衛門　津山信立
星合政輔　淺山二三郎
世古莊次郎　增田新兵衛
竹內嘉方　長崎佐右衛門
西村惣七
當時の區長及代理者は左の如し

區長 小野高秋　理代者若林太郎
仝 森嶋平五郎
仝 後藤友之助　仝 坂井利兵衛
仝 竹內育次郎　仝 山崎安兵衛
仝 岩出重次郎　仝 西川嘉七
仝 中西半次郎　仝 丸山文八郎
仝 牧戶豊吉　仝 田中萬次郎
仝 川邊勝太郎　仝 野呂萬之助
仝 中村兼吉　仝 小津忠五郎
仝 清水縫次郎　仝 森彦兵衛
仝 板倉善右衛門　仝 伊藤三十郎
仝 富岡辰藏　仝 正井佐藏
仝 森岡幸之助　仝 久保德松
非罹災者にして當時盡力せし有志者如左
擴武館長 村上光寶　貸座敷元締 中須半藏
伊藤四郎兵衛　大西喜右衛門
安保庸三　長崎精一
西町 藤村文兵衛　櫻井平藏
倉田惣兵衛　松守彦兵衛
本町 德力嘉藏　喜多村嘉三郎
世古惣十郎　須田一好問
中町 足立萬兵衛　小倉喜兵衛
金兒佐助　小林竹華
新町 山本嘉助　濱田七郎右衛門
谷口源八　山本儀兵衛
（以下畧す）
但町會議員區長等にして非常に盡力せられたる人々は前ニ記せり
當時消防夫は如左
西組取締佐々木清右衛門　東組仝 中井多吉
小頭 高橋爲次郎　西川與三郎
石川鹿之助　松本重吉
喞筒方 金谷榮次郎　村田榮吉
駒場虎次郎
外數十名略ス其他梯子又纏斧鳶方等總て東西合して百三十名を以て組織せしものにして今回の火災には非常に盡力せし向もありたり

◉桜阪罹災地の調査表

町村大字名	罹災戸數全燒	罹災戸數取毀	罹災戸數合計	人員	官廳公廨	教會所寺院	神社	劇場寄席	罹災總棟數	同上ノ内燒失土藏數	免災土藏ノ棟數
愛宕町	二八七	三	二九〇	九〇五	一	一	二	二	九四〇	五一	一七
濱町	二五一	一	二五一	八二六	二	一	一	一	八一〇	八三	三六
白粉町	三六	一	三六	一四七	一	一	一	一	一二八	六	一
日野町	二五三	一	二五三	八一〇	一	一	一	一	八四八	八七	二八
熊町	一一五	一	一一六	四五二	一	一	一	一	五四五	五八	四〇
新町	七〇	六	七六	二四七	一	一	八	一	二八五	四七	二一
中町	二七八	四	二八二	七一九	一	一	一	一	九二八	五二	三二
新座町	一	二	二	六	一	一	一	一			
矢川	五	一	五	一四	一	一	一	一	一六	一	一
垣鼻	七	一	七	二六	一	一	一	一	一三	一	一
計	一、三〇二	一六	一、三一八	四、一五二	五	二	一二	二四	二四、五一四	三八四	一七五



猛火之圖

◎義捐金領收証

四月十五日及び同五日を以て伊勢新聞社より松坂町長大平孝則氏に送達したる義捐金品領收証は左の如し

証

一金八百九拾八圓三拾壹錢

是れは貴社に於て募集相成たる義捐金分

内金拾四圓拾錢

單に松坂町德盛會員罹災者へ義捐

右正ニ領收候也

明治廿六年四月十五日　松坂町長大平孝則印

伊勢新聞社總理松本恒之助殿

証

一演物　拾樽

但し三重婦人會より惠與の分

右ハ當町内火災遭難者へ義捐相成正ニ受領候也

松坂町長大平孝則代理

明治廿六年四月五日　助役　岡田保尙役印

伊勢新聞社御中

◎神官の盡力　其夜の出火を大火と聞くより神官松本秀業氏は方嚮を定め假令親戚火先に在とも开は人々の救助するなるへし而人々の心付さる所は神社也いて御靈代を出し奉らむと自ら任し此人數社の御靈代を出し他社に迂し奉りしといへり

◎飯高飯野高等小學校職員

訓導兼校長安西鼎○訓導和田春澤○仝田公正次○仝大村唯七○仝近藤安太郎○仝山口清太郎○仝糸見萬太郎○仝龜岡松次郎○仝伊藤宗二郎川口禮三淵田兎四生○以下准訓導岡本保丸○脇田久宣○泥川彦三○久保田ひさ○大平さだ○堀田要三郎○田中富之助○兩郡學校組合管理事務補助員清水清次郎○松阪間尋常小學校職員○訓導野口垣○中辻伊之助○阿竹安次郎○山本寅三郎○青助衛○原田熊吉○鈴木熊之助西村信吉○本居慶之助○中島貞次郎○以下准訓導町井秀太郎○岩森猪助○西出安吉○大平さだ○村坂恒三郎○松島藏○鈴木とめ○淀川彦三○藤村てる○松本たみ○新山とく

伊勢新聞は左の如く社告したり

救恤義資募集

松阪町一昨夜の大火は其の災害實に非常に出で備さに人世の慘を極む金穀貨賄を致して其の危急を救ひ以て其の萬一の疾苦を緩ふするは義同胞の進んで爲さざる可らざる所なり縣下博愛慈善の士は冀くは本社號外及び本紙の記事を熟覽し其の慘狀を憫んで應分の義資を投じ以て數千罹災者の困難を救恤せよ本社は左の各款に從ひ速に之を罹災者に致すべし

明治廿六年三月三十一日　伊勢新聞社

義捐金取扱手續

一義捐金穀貨賄は紙上に廣告して別段領收證を發せず、但金品に拘はらず凡て見積代價拾錢以上の者に限る

一領收したる金穀貨賄は逐次松阪郡役所に送附して配與方を請ふべし

一義捐金穀貨賄の出納は終局を俟つて紙上に報告す

一締切期限は來る十日とす、但事急なるを以て迅速の寄贈を望む

一義捐金穀貨賄は本社各地の支局、賣捌所に於ても之れを取扱ふ

義捐應募者

本社募集の主旨を賛襄し寄送されたる金穀の應募人名は如左

金壹百圓　參宮鐵道株式會社

金五拾圓　右　同上社員一同

金三拾圓　伊勢新聞社　松本恒之助

白米拾俵　津市大門町　鈴木庄次郎

金拾圓　仝京口町　村田長左衛門

金拾圓　津市餘慶町　高井作右衛門

金五圓　右同上本支店及酒醬油倉在勤者中

金拾圓　津市北町　淺生五兵衛

金五圓　仝西町　秋月貞藏

金三拾圓　津市築地町　吳弓屯之輔

金貳拾圓　仝萬町　龜井久厚

金拾四圓四拾六錢　津警察署員一身田分署員・邵査教習所員

金五圓　一志郡小船江　田中小十郎
仝　津市京口町　村田源兵衛
仝　堀川町　堀万之助
仝　仝上濱町　伊藤太七
仝　仝常盤町　藤澤七右衛門
仝　三重縣尋常師範學校職員
仝　一身田　何某
金貳拾圓　津市北堀端　太田六郎
金拾圓　仝中茶屋町　富島利八
仝　仝大門町　倉田久兵衛
仝　奄藝郡白子町大字寺家長谷川七左衛門
仝　津市釜屋町　田中林助
金五圓　仝西來寺事務所　並山内各院
仝　三重縣尋常中學校職員一同
金五拾圓　津市上濱町　富田金七
金貳拾圓　仝極樂町　後藤仁兵衛
金拾圓　仝大門町　松田甚十郎
金七圓　三重縣私立病院　今井満外十一名
金拾圓貳拾六錢　山川部外廿八名一名ニ付拾六錢

金拾圓　宇治山田警察署警部巡査　天春文衛
金拾三圓六拾錢　仝吉津分署警部巡査　有志
金五圓　津市丸之内
金三拾圓　津市大門町　伊藤佐兵衛
金拾圓　一志郡小野江村　田中喜右衛門
金拾圓　仝　波瀬村　阪井源吾
金拾圓　津市西來寺町　植村熊吉
金拾圓　三重郡四郷村室山伊藤小左衛門
金六圓貳拾八錢　關警察巡査一同
金百圓　津市分部町　川喜田久太夫
金拾圓　仝　川北傳兵衛
金五圓　仝　川北傳藏
金五圓　河曲郡神戸町大字萱町鈴木權十
金三拾圓東京木挽町鹿島組津西新町仝組出張所
金五圓　津市京口町　小島惣右衛門
仝　仝立町　村山勘七
仝　朝明郡羽津村　森正道
仝　津市常盤町　大富惣兵衛
仝　安濃郡新町大字古川　清水光儀

仝　多氣郡役所
金拾圓　津市魚町　某
金五圓貳錢　鳥羽警察署員
金三拾圓　同波切分署員
津市百五國立銀行
金拾圓　同山田支店
金拾圓　林宗右衛門
金拾圓　一志郡戸木村　小津六三郎
金拾圓　東京日本橋區兜町　川口關之助
金拾圓　津市中之番町中
金五圓　一志郡丹生俱　平尾宗次郎
金五圓　志州夷虞郡　某
金五圓　津市西町　野口安次
金五圓　朝川順三
金五圓六拾八錢　名張警察署員一同
金五圓　安濃郡役所員
金五圓　一志郡矢野村　今村勘左衛門
金拾圓　津市　互福社
金五圓　三重郡室山　伊藤傳七
金五圓　鈴鹿郡國府村平　井充太郎
金貳圓　津市北堀端　直村善五郎

金壹圓　仝大門町　松田傳兵衛
金壹圓　仝　平賀義夫
金壹圓　仝地頭領町　松田豊幹
金壹圓　奄藝郡一身田村　高柿傳八郎
金三圓　仝　貸座敷中
金三圓　都田　青山久四郎
金貳圓　津市伊豫町　若林友次郎
金壹圓五拾錢　仝　森本專右衛門支店
金壹圓　萬町　柴田平助
仝　仝　杉山惣七
仝　津市大門町　大寶院
仝　仝　君林小左衛門
金三圓　仝　森谷三雄
仝　津市八幡町　岡善助
仝　仝　倉田金十郎
金貳圓　仝宿屋町　新妻駒五郎
仝　多氣郡荒蒔　風里谷藤七
金貳圓　仝　福田高次郎
金壹圓五拾錢　一志郡久居町小屋　光雄

金壹圓　奄藝郡大里村大字窪田國府又次郎
仝　仝上木村大字磯山　加藤行海
仝　伊賀上野町　菊輪茂介
仝　四日市大字新町　川嶋準次郎
仝　鈴鹿郡關町佛教進德義會慈善
仝　津市　善德寺
金壹圓　津市萬町　長谷川玄三
仝　仝　加藤清四郎
金貳圓　津市中之番町　林新藏
仝　安濃郡新町　石崎作十郎
仝　伊賀上野　今中忠
金壹圓　津市東町　阿保彌平
仝　同西新町　清水內
仝　安濃郡新町　佛教婦人會
金壹圓五拾貳錢　津市新魚町　星山德次郎
金壹圓　仝岩田町　黑川あき
金貳圓　仝西來寺　福壽會
金壹圓　仝西裏　澤廣保
金壹圓　仝京口町　齋藤伴藏
仝　仝東町　若六
金壹圓　深山始三郎
仝　奄藝郡榮村大字秋永　岩崎六兵衛
仝　津市京口町　光田庄右衛門
金三圓　一志郡三ケ野　瀨田貞齋
金貳圓　仝　十森歪次郎
金貳圓　仝大井村井關　上出又吉
金貳圓　安濃郡明合村　海野謙次郎
仝　仝　紀平雅次郎
金壹圓　飯高飯野郡出身在津學生
仝　一志郡戶木村　野崎節藏
仝　三重郡河原田村中村　真藏
金貳圓　津市餘慶町　大森吉右衛門
金四圓　神戶警察署巡員一同
金三圓　津市綿內町より
金貳圓　奄藝郡稻生村　渥美玄碩
仝　多氣郡川添村　元阪新作
金壹圓　仝　相可村　毛利吉次郎
仝　三重朝明郡書記中西宗慶

金壹圓　度會郡吉津村　足代守人
金三圓　多氣郡五ケ谷村　池田金太郎
金貳圓　奄藝郡一身田村　森田吉兵衛
金壹圓　津市伊豫町　川喜田彥兵衛
仝　分部町　三藤治兵衛
仝　岡藤四郎
仝　田中喜平
仝　佐藤次郎藏
仝　八田孫次郎
仝　伊藤權右衛門
仝　清水甚左衛門
仝　岡村貞吉
仝　加藤勝藏
仝　大橋勘助
仝　鈴木德三郎
仝　谷新右衛門
仝　林作太郎
金壹圓　鈴鹿郡龜山町　岡本半平
金貳圓　三重郡川原田　鈴木廉平
金壹圓　鈴鹿郡關町延命寺花實　群龍
仝　仝關町　若林文七
仝　仝　坂俊次
仝　仝　岩間我何人
金拾圓　津市魚町　森本專右衛門
仝　仝西町　柴田善左衛門
仝　仝築地町　久世卯兵衛
仝　仝伊勢町　梅本勉八
金壹圓　龜山町　田邊訥夫
仝　仝　館喜右衛門
仝　仝　磯村乙四郎
仝　仝　木崎武三郎
仝　仝　佛教報法會員中
金三圓　多氣郡西外城村　森本利兵衛
仝　四日市　學友會
金四圓　相可警察署　親和會
金貳圓貳拾錢　四日市　高富村　鍋口廣治
金貳圓　多氣郡相可村　米山直次郎

金壹圓　東京　大竹清次郎
仝　宮村　胖
仝　津市庭岩寺　隨喜講
仝　員辨郡笠田村　田邊雷藏
仝　奄藝郡白子町寺家　長谷川だい
仝　日本土木會社員　山口常吉
金三圓五拾錢　奄藝郡一身田字平野有志者中
金三圓五拾八錢　尾張警察署員大村福五郎外貳拾人
金壹圓　京都府紀伊郡伏見町　築山三郎兵衛
金貳圓　一志郡川口村　竹內七郎右衛門
金貳圓　仝　眞柄和三郎
金壹圓　仝　眞柄ます
金壹圓　仝　竹內孝太郎
仝　仝　田中直助
仝　仝　藤田齋太
仝　仝　常保義之助
仝　仝　德井俊作
仝　鈴鹿郡庄內村大字原村　佐藤邦光
仝　仝石藥師村　藤田吉造
金貳圓　鳥羽錦町　無名氏
仝　鳥羽町　廣野藤右衛門
金壹圓　仝　藤井佐兵衛
仝　仝　角佐五右衛門
金壹圓五拾錢　一志郡波瀨村　基督教會
金四圓　鈴鹿郡　郡役所職員一同
金壹圓　伊賀國上野西町　筒井精之助
仝　三重郡日永村追分　林菊松
金拾圓　一志郡雲出村大字伊倉津小林嘉平次
金壹圓　多氣郡大淀村　土屋源十郎
金貳圓　度會郡高等小學校職員中
金貳圓　多氣郡　仝　上
仝　宇治山田町　濱田國松
金壹圓　一志郡豐地村　三浦清之亟
金壹圓　津市弓ノ町　原田勝藏
金貳圓　一志郡豐地村大字井之上東畑平三郎
金壹圓　仝　東畑與吉
仝　仝　大森誠十郎
金三圓　津市伊勢町　川喜田清兵衛

金貳圓　長井氏克
金壹圓　內多正雄
仝　吉村賢藏
仝　黑川佐太郎
仝　荒木一作
仝　伊藤爲藏
仝　佐伯惟毅
金貳圓　津市役所書記附屬員一統
金壹圓　河曲郡神戶町　野田六左衛門

合計千三百三拾四圓三拾貳錢

但壹圓以下は略す

義捐公告

松坂町役場

金貳圓　本町大字白粉町　田中富克
白米拾五俵　仝　大字川井町　伊藤四郎兵衛
白米拾五俵　津市魚町　笠井工事三重事務所工學士
梅干壹斗　笠井愛次郎
玄米五拾俵　名古屋市鐵砲町　神野金之助
仝拾五俵　本町大字殿町　坂口藤助
金三拾圓　當郡松江村大字船江　齋藤恒之助
金百圓　本町大字新町　西川增次郎
白米拾俵　飯野郡機殿村中
金五拾圓　當町大字魚町一丁目中
玄米拾俵　仝大字殿町　苗秀社
金百圓　本町大字西町　藤村文兵衛
金三拾圓　若林太郎一
仝　西川藤太郎
仝　中須半藏
金千圓　長谷川治郎兵衛
金五百圓　小津與右衛門
玄米五拾俵
金千圓
玄米百俵
金三拾圓　小津新五郎
金百圓　坂井利兵衛
金五拾圓　當町大字本町ノ內通り本町中
金壹圓　春木初太郎
金五圓　阿竹吉平
金三拾圓　西村新兵衛
金百圓　岩崎直次郎
金五拾圓　參宮鐵道會社
仝　社員

金三拾圓　小津藻右衛門
金弐圓　清水縫次郎長女けい
仝　仝人二女　すかの
仝　仝人母　むろ
仝　仝人妻　かの
金三拾圓　中西爲吉
金弐拾圓　飯野郡西黒部村大字松名瀬
白米拾五俵　神道祓派伊勢分教院三重郡四日市町
玄米拾俵　星合政輔
金壹圓　富島九郎兵衛
金百圓　萬濃玄厚
仝　宇野重藏
草鞋六百足　山田川崎某
精白米弐俵　河曲郡神戸村大字堅町　杉本清吉
金百圓　當町大字本町　今井友三郎
人夫五百人　飯高郡花岡村
金弐拾圓　上橋茂兵衛
金五拾圓　當町大字大黒田　村井文右衛門
白米五俵　仝大字新町　河合武八支店
人夫五百人　松阪町大字西町中

金拾圓　當町大字西町　西町報德社
仝　上　鹽井武之助
仝　上　西出三四郎
金五圓　一志郡役所廳員中
金拾圓　津市大字藤枝町有志
玄米弐拾俵　一志郡松ヶ崎大字松崎浦　松島吉右衛門
金百圓
玄米五俵　一志郡中原村大字津屋城西　東平
金五拾圓　鈴木一郎　鈴木永雄
本町大字新町　增井喜右衛門
繩五拾束　多氣郡明星村大字有爾田中新兵衛
金五拾圓　當郡神戸村大字垣鼻横山三郎右衛門
玄米壹俵　仝郡仝村大字上川　池野德太郎
金拾圓　津市大字大門町　小林源六
人夫百五拾人　當郡松江村中
金拾圓　當町大字川井町　小田助七
仝　仝　岸幸次郎
玄米五俵　當郡大河内村大字桂瀨中
金弐圓　飯高郡朝見村大字西野口牧戸辨藏
金拾圓　當町大字本町ノ内字工屋町
金三拾圓　仝町大字大黒田　吉川彌七

金拾圓　當町大字西町　小野高秋
精米拾俵　山本源助
金五拾圓　飯野郡射和村
金百圓　安濃郡新町大字古河　粟原亮一
玄米拾俵　一志郡米ノ庄村大字市場　富田謹三
金五圓　當町大字西町　米本平左衛門
仝　仝　松田伊八
仝　仝　野崎善吉
金拾圓　仝　小津宗七
金弐圓　當郡川俣村大字田引　宮本覺兵衛
金五拾圓　津市大字中茶屋町　工藤廣助
玄米壹俵　當町大字新町　山本嘉助
前川萬次郎○　竹岡平吉
金五圓　津市上濱町　中川小太夫
金三拾圓　當郡柿野村大字深野　野呂幸之助
金壹圓　當町大字新町　西川茂兵衛
金拾圓　當郡花岡村常寶寺　和讃講
仝　判事　富岡信武
金拾五圓　當町大字中町　檢事　高松重範
金拾圓　多氣郡上御綠村大字馬ノ上　中村兵助
神道天理教會集談所　渡邊金兵衛

金拾圓　粥見村
仝　柿野村
金七圓　大石村
玄米拾俵　花岡村大字大黒田池上　次雄
金八圓　當町大字本町字大手町
金拾圓　一志郡米ノ庄村大字市場　堀江友一郎
金弐拾圓　仝郡仝村大字市場　米本竹次郎
金拾圓　仝　村田彌三郎
金弐拾圓、白米五俵仝　米本庄三郎
人足二百人　飯高郡濱村大字大口中
白米三俵　津市大字東町仮事務所慈善會員
金弐拾五圓　一志郡米ノ庄村大字市場庄　宇野重吉
金五圓　仝　宇野萬吉
金拾五圓　飯高郡大河内村大字桂瀨　堀木嶋右衛門
金三圓　名古屋市本萬町　加藤治助
金弐圓　飯高郡濱村字高町屋　田南岳章
精米壹俵　久居町、仝本村、仝戸木村、
仝七粟村、仝稻葉村、仝榊原村、仝大三村、
仝大井町、仝川口村、八ッ山村境村組合、

仝家城村、仝竹原村、仝八知村、仝太郎生村、
仝伊勢地村、仝八幡村、仝多氣村、仝下ノ川村、
仝宇氣郷村、仝波瀬村、仝中郷村、仝豊地村、
仝川合村、仝高岡村、仝中川村、仝豊田村、
仝中原村、仝阿坂村、仝米ノ庄村、仝天白村、
仝鵜村、仝小野江村、仝雲出村、仝高茶屋村、
仝桃園村、仝矢野村、仝倭村
人夫七百人　飯高郡神戸村
金壹圓　長崎縣北松浦郡福島村　山口仁助
金拾圓　平野半兵衛
仝　大字新町　杤田清吉
金貳拾圓　多氣郡津田村一同
金拾圓　仝岡田吉次郎
人夫三百人　飯野郡朝見村中
金貳拾圓　一志郡米ノ庄村大字市場庄米本銀藏
咏嚴貳樽　金五圓　飯高郡濱村大字平尾　中島重助
金三圓　大字荒木　服部德平
仝　仝　松岡文平
玄米拾俵　大字町平尾　種谷寅藏

白米貳俵　大字新町　長井直七
金百五拾圓　三井銀行
仝　三井家總代　三井復太郎
白米五俵　度會郡宇治山田町大字館町　物中　仝今在家町有志中
仝中之切町仝上
仝浦田町仝上
仝櫻木町仝上
仝中之町仝上
金參圓
白米一俵
金八圓　仝古市町仝上
金壹圓　仝久世戸町仝上
金參圓　仝倭町仝上
白米拾俵壹斗五升　仝尾上町仝上
仝壹金俵拾九圓五錢　仝岡本町仝上
仝四俵貳斗五合金七圓七拾九錢仝吉淵町仝上
白米三俵　仝吹上町仝上
仝　金貳拾四圓四拾五錢　仝河崎町仝上
白米壹俵　仝船江町物中
金貳圓三拾六錢　仝豊川町有志中
金六圓貳拾五錢　仝田中々世古町仝上
白米壹俵金拾四圓八錢　仝宮後町仝上
金拾六圓五拾錢　仝一之木町仝上

金五圓　仝大世古町物中
白米七俵三斗四升五合　仝一志久保町
金拾圓貳拾七錢　有志中
白米三斗金三拾壹圓八拾五錢八日市場町有志中
金貳拾七圓五拾錢　仝曾禰町仝上
白米四俵四升五合　仝下中之郷町仝上
金貳拾圓貳拾錢　仝常盤町仝上
白米壹俵金貳拾七圓七拾八錢　仝浦口町有志中
白米三俵　仝二俣町仝上
白米二俵七升　仝辻久留町仝上
白米三俵一斗二升　仝中嶋町
金貳拾三圓六拾錢　有志
白米貳斗　仝宮川町仝上
金三圓　宇治山田町大字川崎町　山下五郎兵衛
橋本金六　武村勘太郎
金壹圓　仝　池田瀬平
金壹圓　仝　西川安吉
金壹圓　仝　橋川佐七
金壹圓　仝　藤原長策
金壹圓　仝　奥野惣助
金拾圓　仝　北出直七
金壹圓　仝　村田靜照

金壹圓　仝　井阪長七
金拾圓　川井町　楠井くめ
金五圓　當町大字本町　出口庄次郎
金拾圓　飯高郡大字上蛸路人民代常保三郎兵衛
金拾圓　三重縣鈴鹿郡長　竹下康之
白米拾俵　飯野郡漕代村
金三拾圓　松坂町大字大黒田、長崎佐衛門
金貳拾圓　仝　森彦兵衛
金拾圓　仝　吉川爲吉
金拾圓　仝　森井和助
金拾圓　仝　清水鐵次郎
金五圓　仝　千草圓助
金五圓　仝　野呂岩吉
金五圓　仝　清水清次郎
金五圓　仝　奥野齋之助
金五圓　仝　西浦與吉
金三圓五拾錢仝　村山豊次郎
金參圓　仝　北村豊三郎
金參圓　仝　山田洞碧

金貳圓　仝　新良五郎兵衛
金壹圓五拾錢仝　若林善右衛門
金貳圓　仝　錦　卯吉
金壹圓五拾錢仝　加藤　岩吉
金五圓　仝　中村　俊三
金壹圓五拾錢仝　若林伊之助
金壹圓　仝　八重口淺次郎
金壹圓　仝　河口嘉兵衛
金壹圓　仝　西山祐次郎
金壹圓　仝　筒井寅吉
金壹圓　仝　小嶋久吉
金壹圓　仝　水谷久吉
金壹圓　仝　吉田捨吉
金壹圓　仝　原藤吉
金壹圓　仝　堀本平九郎
金壹圓　仝　小林熊吉
金壹圓五拾錢仝　辻萬吉
金壹圓五拾錢仝　若林てい
金壹圓　仝　戸嶋元次郎

金壹圓　仝　齋藤芳重
金壹圓　仝　說教塲
人夫四十人　松坂町大字町作沖中中
金貳拾圓多氣郡五ケ谷村字車川北村　茂吉
金拾圓愛知縣名古屋市宮町四十三番戸佐藤理助
金拾五圓　當町大字殿町　山本如水
金七拾五圓　大字殿町　原田二郎
玄米三俵　花岡村　辻石躬
玄米五俵　神戸村大字西岸江　松浦榮之助
金貳圓　仝村大字上川　伊藤勝次郎
金壹圓　松坂町大字殿町　土方齋吉
金七圓　仝町大字殿町　野口祖、田淵岩吉
飛井鶴郎、岡村潔助、牧音七、吉井幸吉、
金三拾圓飯高郡港村大字高町屋　山口虎三
白米五俵　一志郡松ケ崎村
金三圓　飯高郡鈴止村大字東岸江山口庄藏
金三百圓　三重某
金貳圓　多氣郡相可村大字弟國坂井良平
金參圓　大河內村組合福田教會

金五圓　川井町　田中文兵衛
仝　仝　加藤清吉
白米拾俵　飯高郡松尾村中
金拾五圓　一志郡松ケ崎村大字松ケ島松本茂平
仝　黑田町　川邊勝太郎
仝　仝　荒木熊藏
金五圓　仝　柏金藏
仝　仝　森佐七
金四圓　仝　中西關藏
仝　仝　須川市太郎
金三圓　仝　荒木恒次郎
仝　仝　井田七郎兵衛
仝　仝　荒木米藏
金貳圓　仝　藤村萬之助
仝　仝　村田清七
金壹圓　仝　加藤升八
仝　仝　上田清兵衛
仝　仝　酒井國松
仝　仝　山住房藏

仝　仝　松島久米松
仝　仝　松井多十
仝　仝　大谷鹿之助
仝　仝　前川友吉
仝　仝　矢野忠次郎
金三圓　仝　前川新助
金貳拾五圓　太物小間物卸商　新玉講
取次人西町　藤村喜兵衛
金貳拾五圓　呉物卸商　神樂講
取次人山崎安兵衛にて森佐七
金貳拾圓　飯高郡宮前村　井上善助
金七圓　松坂町　上田實
金六圓　仝　蓮井清純
金三圓五拾錢　仝　芳賀傳之濟
金三圓五拾錢　仝　北村六三
金三圓　仝　南雲延五郎
金三圓　仝　長東槌
金貳圓　仝　米山彦次郎
金壹圓　仝　藤田秀吉
金拾圓　大字川井町　後藤友之助
金貳圓　仝　大平利八

金五圓　仝　長崎與兵衛
金貳圓　仝　伊藤安吉
金壹圓　仝　松田勘藏
金壹圓　仝　北川要之助
金貳圓五拾錢　仝　太田きくへ
金壹圓五拾錢　仝　槌谷三藏
金貳圓　仝　村田榮助
金壹圓五拾錢　仝　酒井熊吉
金二圓　仝　四方梅次郎
金壹圓　仝　山野邊梅吉
金壹圓　仝　八田卯之助
金壹圓　仝　土屋勝之助
金三圓　仝　安田彌太郎
金貳圓　仝　倉田長三郎
金壹圓五拾錢　仝　伊藤清之助
金貳圓　仝　林嘉吉
金壹圓　仝　松田爲次郎
金拾圓　仝　前野松次郎
金三圓　仝　山本和吉

金壹圓　仝　森岡庄三郎
金三圓　仝　淺原重左衛門
金壹圓　仝　藤村德松
金壹圓　大字西町　大西某
金貳拾圓　大字新町　飯田萬吉
金拾五圓　仝　久保雄藏
金貳圓　仝　加藤幸次郎
金五圓　仝　長井伊助
金五圓　仝　西山文兵衛
金五圓　仝　山本儀兵衛
金五圓　仝　濱田如三郎
金三圓　仝　濱田駒藏
金三圓　仝　山中源藏
金貳圓　仝　猪爪善吉
金貳圓　仝　野田米次郎
金貳圓　仝　深野みし
金貳圓　仝　服部正文
金壹圓　仝　小川久兵衛
金壹圓　仝　桂原新七

金五圓　柿野村大字上仁柿　竹岡佐右衛門
金五圓　神戸市元町五丁目　森家德松
金拾五圓　松江村大字曲り　齋藤半十郎
金壹圓　大字本町　春田音藏
金拾圓　大字川井町　海津市郎兵衛
金貳圓　渡邊敬之
金百圓　豊地村大字藥王寺　宮村猪之助
金三圓　陸軍砲兵中尉在東京　松本正義
金三圓　海軍少尉在東京　布目滿造
金五圓　陸軍歩兵大尉　小出義之
眼藥貳百瓶　醫師　佐伯正雄
玄米五俵　天理教會　津支教會
金五圓　桑名町大字江戸町　味岡初次郎
金四圓貳拾六錢　木本警察署警部巡査中
金拾圓　上野警察署山田分署警部巡査一同
金拾圓　當町大字殿町　林歌次郎
金拾圓　松坂町大字殿町　安西鼎
金拾圓　大字中町　小倉喜兵衛
金拾壹圓四拾錢　足立萬兵衛

金貳圓　齋藤吉松　仝　三好つる
金貳圓　原田豊八
金壹圓　黒川勘藏　仝　三浦たね
玄米拾俵　度會郡田丸町　西川長次郎
濱物五樽　西川工事事務所
金三拾圓　飯高郡伊勢寺村中
金壹圓　松坂町大字中町　村田彌助
金拾五圓　當町大字白粉町　小泉秀乘
來迎寺住職
金拾五圓　大字新座町中
金五圓　川井町　鹽口惣兵衛
金壹圓　飯高郡粥見村相津　圓通覺成
仝　大森才之助、仝森山平八仝大西和平、
仝　小西辛助仝小西喜八
金三拾圓　飯高郡大河内村ノ内大字
大河内○笹川○矢津○勢津○辻原○坂内
金拾五圓　當町大字中町　水野良英
曹洞宗養泉寺住職
金壹圓　松坂町大字中町　龜井金之助
金百圓　津市　中條瀨兵衛
金貳拾圓　松坂町大字川井町　大西喜右衛門
金五拾圓　東京深川魚住町前川忠七○村井榮助○
伊藤惣助○藤井政七○武笑彌平○鈴木庄兵衛

金貳百圓　横濱ニテ　大谷嘉平
金五拾圓　仝　大谷幸平
金壹圓　當町大字新町　壞木惣太郎
幾井萬金壽百枚
葛根易貳百帖　仝町大字本町　西村榮助
玄米壹俵　飯野郡射和村大字庄村下倉　一郎
濱物十樽　三重婦人會
金壹百圓　三重縣飯高郡宮前　堀内鶴雄
金貳圓　松坂新町出口留吉取次　何某ヵ
金五圓　松坂町大字本町　竹内凉齋
金五圓　南勢醫學會
金拾五圓　松坂町大字大黑田　野呂藤兵衛
金百圓　當郡宮前　井上增五郎
金拾五圓　大坂市日本橋北詰　荒木安吉
金貳圓五拾錢多氣郡大字相可村　御子健次郎
仝　御子準造
金壹圓五拾錢　山岡俊次郎
仝地主三郎兵衛○　仝西岡金助
金貳圓　岡田榮次郎
金壹圓　長森辰吉○仝見並彌兵衛○仝山本德次郎

金壹圓草鞋五拾足　西岡竹次郎
金壹圓　淨土寺住職　古泉性信
金壹圓　藤井昌玄
金三圓　大字蓮峰　野口與平外二十四名
金壹圓五拾錢　大字兄國　中瀨治兵衛
金三圓　大字朝長中
金壹圓　西池上　津田勝藏
金三圓　大字東池上　萩田常次郎
金壹圓　奥村文之助
金五圓　飯野郡神山村大字八太
金拾五圓　天理教會　松坂集談所
金八圓　花岡村大字大黑田　小林豐吉
金三圓　若林善太郎○　金參圓　板谷齋次郎
金貳圓　高橋三郎右衛門○　仝橋爪齋
仝田中吉郎兵衛○仝中村己之助○仝北川友吉
仝小林將謙仝字新田町中
金壹圓五拾錢　跛谷平太郎
金壹圓　角谷彌左衛門○仝中頭彦七○仝田中圓藏
仝堀内喜之助○仝藤原光謙○仝田中鹿之助

金壹圓　小林爲吉
金壹圓　仝若林庄次郎　仝大住勇吉
金拾圓　大字驛田村　興農社
仝　辻直吉
金三圓　堀江門次郎
金貳圓五拾錢　石井胖次郎
金貳圓　東出組有志
仝　萬庄組仝上
金壹圓五拾錢　大門清之助
金壹圓　山ノ世古組有志
仝　奥野鹿吉
仝　柿本嘉藏
仝　酒井宗十郎
仝　三宅藤次郎
仝　三宅某
仝　豐角傳之亟
金貳圓　小黑田垣本小三郎
金壹圓五拾錢　垣本勘七
金壹圓　横山文藏

金壹圓　新田組
仝　大字内曲リ　前川久兵衛
金貳圓　大字田村　中島鶴之助
金壹圓　宇田幸十郎
仝　三宅音次郎
仝　三宅庄藏
玄米壹俵　大字山室　山本德三郎
金貳圓　山本藤左衛門
金壹圓五拾錢　山本喜三郎
仝　馬場幸次郎
仝　谷口助之亟
金壹圓　山本彌太郎
仝　山本新七
仝　井田絞次郎
金貳拾圓　飯野郡櫛田村
金壹圓　和歌山縣東牟婁郡新宮町里口幸三郎
金五圓　飯高郡川俣村中
金三拾圓　多氣郡佐原村
金拾圓　仝郡西外城田村有志者

金壹圓　大字大黒田　岡田吉兵衛
金五圓　北出駒藏
金百圓　飯野郡神山村大字山添　服部源三郎
金拾圓　飯高郡神戸村大字下村　荒木定次郎
金三圓　度會郡楠原村大字内瀬　久保慶助
金三拾圓　飯野郡神山村大字中萬　富山小左衛門
金三拾圓　中井平左衛門
金拾圓　〃　竹口作兵衛
金五圓　中野嘉兵衛
淺井萬金膏五十枚、ハッキリ拾個　喜多村嘉三郎
精錬水廿個きゞ藥三百個
金拾五圓　米ノ庄村大字久米　太田三之助
金五拾圓　仝　村　太田彌四郎
金貳圓　津市宿屋町　前薬平右衛門
仝　松阪町大字魚町一丁目　某
金貳圓　惟精學舍生徒中
金壹圓　南牟婁郡木本町　加田利八
金貳圓　松江村大字曲リ　糀谷重吉
金拾五圓　朝見村字朝田朝田寺住職復本義仙
金拾圓　津市橋本清助

金壹圓　一志郡小野江村西肥留辻原清藏
金三圓　大字新町小字大工町　山住勝藏
金壹圓五拾錢　竹内五兵衛
仝　服部幸吉
仝　大井清藏
仝　東谷友三郎
金壹圓　井田はる
金三圓　櫛田村在京都　池田護彦
金五圓　津市商工同志會
金三圓　大字西町　倉田惣兵衛
金貳圓　仝殿町　福田節
金五圓　中學二級生周旋人　常保英三
○富山雅三○荒木三郎○鈴木駒次郎
金三圓　飯高郡森村大字森　岡本樹兵衛
金貳圓　仝　今原久吉
金壹圓　民谷豊三郎
金壹圓　相可直間税分署員　平山季人
金五圓　中學校二級生中
金拾圓　大字川井町　村上光實

金壹圓　鈴鹿郡國府村真言宗尉南寺大師講有志中
金五圓　北濱村大字東大濱　西村安十郎
仝　仝　西村安太郎
仝　當郡茅廣江村大字茅原　鈴木萬之助
仝　協眞社
仝　阿坂村大字小阿坂　中西林之助
金壹圓　伊賀西蓮寺内　佛教十五日會
金壹圓六拾錢　飯高郡茅廣村寺院中
金壹圓　久居本町　加戸梢吉
金貳圓　津市　笹山由三郎
仝　仝　某
金三拾圓　椋倉富三郎
野呂万之助。喜多村たね。倉田儀八。
倉田兵藏。金兒政吉
金貳圓五拾錢　兵庫縣神戸港　永澤組中
金壹圓貳拾貳錢五厘　參拜有志者
金壹圓　三重津市中町小教會所中
金五拾圓　第二回一万人參宮黒住教山田本部
金拾圓　京都四條通御旅町　熊谷市兵衛

金五百圓　侯爵徳川茂承
金壹圓五拾錢　丹波國福知山町藤本喜兵衛
金壹圓　一志郡下ノ川村　渡邊操
仝　仝　小野耕平
仝　仝　中田九左衛門
奈良縣山邊郡山邊村大字三嶋
金三拾圓　神道天理教會長　中山新次郎
金三拾圓　度會郡瀧ヶ原村大字野後吉田善三郎
仝　多氣郡佐奈村
金五圓　多氣郡川添村大字椋原西村用藏
金三圓　一志郡字氣郷村大字與原中
金貳圓　松坂町大字殿町　加藤正謙
金壹圓　津市北濱町　岡半右衛門
合計壹万七百六拾四圓
但壹圓以下略ス
米合計五百三拾貳俵余
四月廿九日

◉三重新聞社の集募に掛る義捐金左ニ

金壹圓　安濃郡村主村　中山　氏平
仝　山田岡本町　尾崎　二吳
仝　仝古市町　船越　揖吾
金拾圓　木村　誓太郎
仝　三輪　猶作
金五圓　一身田　某
仝　南勢醫學會
金拾圓　四日市濱一色　白石　直次
仝　稻葉山　船本　龍之助
仝　濱町　吉田　常吉
仝　濱町　田中　武兵衛
仝　九鬼　紋七
金三圓　仝　紋十郎
金壹圓　山田岡本町　田端　尙三
仝　四日市町大字上新町　堀木　忠良
金五圓　四日市醫會
金貳圓貳拾錢　朝明郡朝日村　洗心會中
金貳圓　北牟婁郡赤羽村　上野　十太夫
金壹圓　河曲郡神戸町　谷水　新太郎
金七圓八拾錢　高田本山　貫練教授有志中
金壹圓　共興學舍　生徒九十四名
金壹圓　四日市町　中川　知一
仝　四日市町　石田　忠三
金貳圓　北牟婁郡二鄉村　長井　甚三郎
金貳圓　多氣郡丹生村　加茂　英生
金壹圓　多氣郡下御糸村　堤　理平
仝　仝郡仝村　鈴木　幸平
金五圓　仝　早川　某
金三圓　四日市婦人會
金三圓三拾錢　津市素人素義太夫有志連
金五圓　東京淺草區　井上　靜雄
金壹圓　飯野郡櫛田村西方寺　森　盛　譽
但以下人名ハ署ス
金壹百圓也　同社より松坂町役場へ送附の分

明治廿六年五月十日印刷
明治廿六年五月十四日出版

定價金六錢

三重縣平民
著作者　松永滿佶
三重縣伊勢國飯高郡松阪町
大字本町百四十九番屋敷

三重縣平民
發行兼印刷者　中西嘉助
仝縣仝國仝町大字日野町
五十一番屋敷

印刷所　伊勢新聞社松阪支局
仝縣仝國仝町大字新町十四番屋敷

特51
66

伊勢松坂町大火実況録

国立国会図書館

025183-000-6

特51-66

伊勢松阪町大火実況録

松永　満佶／著

M26

ADC-2577